

課題研究委員会

Report 2024

「with 感染症」時代における保育と子どもの育ちを考える
—全国調査の結果から見えてきたもの—



一般社団法人 日本保育学会

企画主旨

本委員会は 2019 年度の新型コロナウイルス感染症の発生・拡大期からこのテーマに取り組んできた。現在は収束し、保育の現場でもコロナ以前の生活が戻ってきたように見える。むしろ、次々と起こる問題や課題への対応に奔走する現場においては、「ひと昔前の禍」の感すらある。コロナ前を知らない在園・所の子どもや保護者、若い保育者達には、現在の保育が標準になっている。

しかしながら、コロナはめまぐるしく変転し、複雑かつ予測困難な時代を歩む私達に、強烈な不確定要因を加え、従来の保育の見直しと変化を与えてきたことを忘れてはならない。前回の調査報告は、感染拡大期の第 75 回大会であった。参加者の関心は高く、不安や課題に直面しながらも未曾有の状況に立ち向かい力強く保育実践を進めている様子が伝えられ議論を深めた。今回は、昨年秋に実施した全国調査「『with 感染症』時代における保育と子どもの育ちを考える調査」の結果を発表し、「こどもまんなか」のための保育に資する議論の展開を期待している。

2024 年 5 月

日本保育学会課題研究委員会委員長
佐々木 晃

※なお本報告書は、2024 年 5 月 12 日に開催された、日本保育学会第 77 回大会学会企画課題研究委員会シンポジウムの発表資料を再構成したものである。課題研究委員会の構成委員は 2024 年 5 月 11 日現在（以下、全て同じ）。

目次

企画主旨	1
佐々木 晃（鳴門教育大学・課題研究委員会委員長）	
1 子どもの育ちを支える援助	3
新井美保子（岡崎女子大学・課題研究委員）	
2 園と保護者や地域との関わりと行事等の実施状況	12
三宅 茂夫（神戸女子大学・課題研究委員）	
3 「園での取組」「ICT等の活用」「子どもの育ちへの影響」の捉え	26
西山 修（岡山大学・課題研究委員）	
4 職員間のコミュニケーションを支えた誇り	40
花輪 充（東京家政大学・課題研究委員）	
資料	54

1 子どもの育ちを支える援助

新井美保子

1. 調査の概要

今回の調査目的は、新型コロナウイルス感染症の出現から3年余りが経過し行動制限が撤廃された現在の保育状況について明らかにすることと、「with 感染症」時代の保育において留意すべき事項を明らかにすることである。調査は、北海道から沖縄までの全国の保育者（園長・所長等）を対象とし、日本保育学会長名で関係団体に協力を依頼して2023年9月にGoogleフォームを使用して実施した。倫理的配慮として、調査目的や個人情報への配慮、処理方法、回答は自由意志であること等を調査用紙にて説明し、回答により同意を得たものとした。

全国45都道府県より1,353名（有効回答数1,345名）の方にご回答いただいた。地区別の内訳は北海道・東北109名、関東354名、中部165名、関西282名、中国136名、四国123名、九州・沖縄137名である。

園の種別はスライド3のとおりである（無回答を除く）。回答者の職名は、「園長・所長・施設長」が77.0%、「副園長・教頭・主幹教諭・主査・主任等」が21.8%である。園の規模は総園児数49名以下が3割と最も多く、100名未満の小規模な園が全体の約6割を占めている一方で、200名以上の園も約1割ある。1園当たりのクラス数は1～3クラスが36.2%、4～6クラスが35.4%である。

2. 子どもの育ちを支える援助

2021年9～10月に実施した予備調査で明らかになった「コロナ下の保育の中で気になる子どもの育ち」の中から、特に不安視された項目を中心に、「今後、保育上特に意識して援助していきたいと思われること」を尋ねた。

5領域の観点から22項目を作成し4件法で尋ねたところ、15項目で「とてもそう思う」が50%以上となった。具体的には、「友達と心から笑い合うなど心と心が触れ合い、人への親しみや共感性が育つように援助」（1位、69.1%）、「葛藤、協同・協力の体験等を通して、人とのよい関係をつくる力を援助」（2位、68.2%）、「自己主張や人間関係の調整など、コミュニケーション能力を援助」（3位、64.4%）、「みんなで歌ったり、踊ったり、演奏したり、演じたりするなど、人と共鳴する感覚や楽しさを援助」（5位、62.5%）等、領域に関わらず「人との関わり」に関する項目が重視されていた。また、「進んで体を動かそうとする意欲や運動能力を援助」（6位、61.7%）、「情緒的な安心感や安定感を援助」（7位、59.0%）等、心身の健康に関する項目も高い。この他、「自然体験や社会体験を通して、優しさや命を大切にする心、たくましさ等」（4位、64.3%）、「自然体験や社会体験などの直接体験に基づく確かな知識・技能等」（9位、56.6%）、「小学校との連携に努め、小学校生活に自信や期待をもつこと」（8位、58.1%）等、園外活動や直接体験を通して心情や知識・技能を育てることの大切さを指摘する回答も多かった。その中で「高齢者・地域との交流、公共施設等の使用等による社会性・公共性の育成」は41.6%（21位）と低い。また、小学校との連携や高齢者・地域交流等については、スライド8に示したとおり、園の種別等により差が見られることが明らかになった。

次に、「子どもの遊びや活動、生活環境等について、現在、取り組んだり工夫したりしていること」を4件法で尋ねたところ、「よく行っている」項目として「戸外で十分に身体を動かす活動」（46.5%）が予備調査の19.3%から大幅に増加していることがわかった。一方、「行事中心から子ども主体の活動を増やしている」（27.9%）は予備調査とほぼ同程度の水準に留まり、「遊びの拠点を分散させ集団一斉活動を削減」は「行っている」を含めても54.7%と20ポイント以上低下し、コロナ禍前の状況に戻りつつある様子がうかがえた。また、公私立保育所では「夏季に全身が水につかるようなプール・水遊び」を「行っていない」回答が28.3%（全体平均8.2%）、「自然体験・社会体験・園外保育等の直接体験の積極的導入」を「行っていない・あまり行っていない」回答も21.4%（全体平均9.4%）と、他と比較して多かった。コロナ下では取り組み難かったこれらの活動の意義を再考し、実施について検討する必要があるだろう。

今回の調査結果に表れた子ども同士の関わりの重要性や、戸外での運動や活動、直接体験に基づく心情や知識・技能等の育成等は、コロナ禍により保育・幼児教育の本質を考える中で重要性を再確認した事項と言える。子どもの育ちを保障していく保育・幼児教育を推進していきたい。

日本保育学会第77回大会 課題研究委員会シンポジウム
(2024. 5. 12)

「『with 感染症』時代における保育と子どもの育ちを考える
—全国調査の結果から見えてきたもの—」

子どもの育ちを支える援助

課題研究委員

新井美保子（岡崎女子大学）

1. 調査方法と回答者の属性

（1）目的

- 新型コロナウイルス感染症の出現から3年余りが経過し、行動制限が撤廃された現在の保育状況について明らかにする。
- 「with 感染症」時代の保育において留意すべき事項を明らかにする。

（2）調査時期・方法・対象

- 2023年9月、Google フォームを使用。日本保育学会長名で関係団体に協力依頼。
- 北海道～沖縄の全国の保育者（園長・所長等）を対象。
- 倫理的配慮として、調査目的や個人情報への配慮、処理方法、回答は自由意志であること等を調査用紙に明記し、回答により同意を得たものとした。

（3）回答者数

- 回答者数：1353名、有効回答者数：1345名

I. 調査方法と回答者の属性

(4) 回答者の地区

NAを除く (%)

北海道・東北	関東	中部	関西	中国	四国	九州	計
109 (8.4)	354 (27.1)	165 (12.6)	282 (21.6)	136 (10.4)	123 (9.4)	137 (10.5)	1306 (100.0)

・全国45都道府県から回答を得られた。

(5) 園の種別

NAを除く (%)

	幼稚園	保育所	認定こども園	合計
公立園	456 (34.1)	117 (8.8)	141 (10.5)	714 (53.5)
私立園	270 (20.2)	56 (4.2)	295 (22.1)	621 (46.5)
計	726 (54.4)	173 (13.0)	436 (32.6)	1335 (100.0)

・幼稚園の回答が多く保育所は少ない。

(6) 回答者の職名

・園長・所長等：77.0%、副園長・主任等：21.8%

1. 調査方法と回答者の属性

(7) 園の規模

NAを除く。名 (%)

49名以下	50~99	100~149	150~199	200~249	250~299	300名以上	計
413 (30.9)	384 (28.7)	255 (19.1)	135 (10.1)	78 (5.8)	30 (2.2)	43 (3.2)	1338 (100.0)

・総園児数49名以下の小規模園が最も多く、100名未満の園で約6割を占める。

200名を超える園は約1割。

(8) 園の総クラス数

NAを除く。名 (%)

1~3	4~6	7~9	10~12	13~15	16~18	19~21	計
480 (36.2)	469 (35.4)	202 (15.2)	118 (8.9)	35 (2.6)	16 (1.2)	6 (0.5)	1326 (100.0)

・3クラス編成が296名と最多で、次いで6クラス編成が231名。

6クラス以下が約7割を占める。

Ⅱ. 園の子ども達の様子と援助について

予備調査（2021年9～10月実施）では、以下の課題が明らかになった。

- ①情緒の不安定さ、集団に入ることの不安感・緊張感、感染に対する警戒感など
- ②子ども同士が夢中になって関わることや、自己表現、相手の感情の理解などが不足。マスクで表情がわからない
- ③園外のひと・もの・ことを中心に、直接体験が不足していること



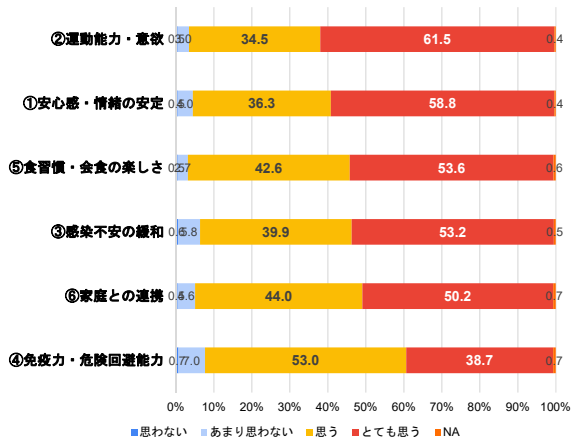
今回の調査で明らかにしたいこと

目的：コロナ下の保育を経験したからこそ、改めて今後の保育で特に大切にしたい子どもの育ちは何かを、援助の観点から明らかにする。

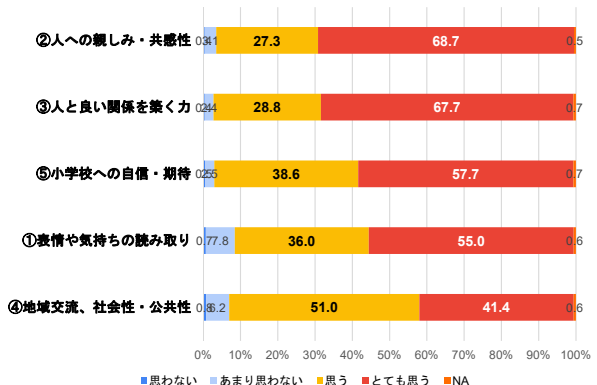
方法：「コロナ下を過ごした子ども達の様子から、今後、保育上、特に意識して援助していきたいと思うこと」を、予備調査で明らかになった上記の課題を中心に5領域別に尋ねた。

1. 今後、保育上、特に意識して援助していきたいと思うこと

(1) 心身の健康に関すること



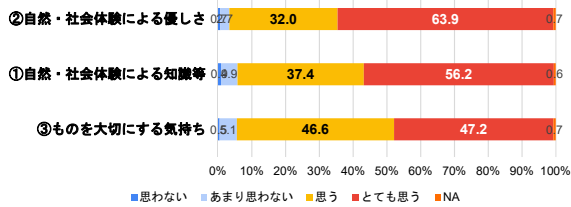
(2) 人との関わりに関すること



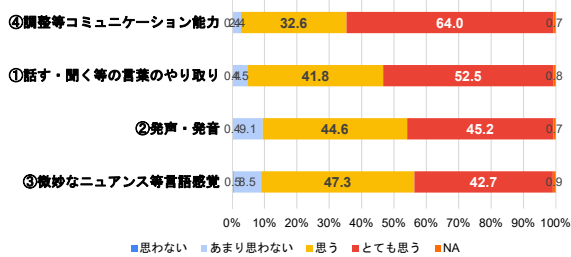
②人への親しみ・共感性や、③人と良い関係を築く力は、積極的に肯定する意見が2/3を占める一方、特に高齢者を含む④地域交流は、約4割に留まっている。

1. 今後、保育上、特に意識して援助していきたいと思うこと

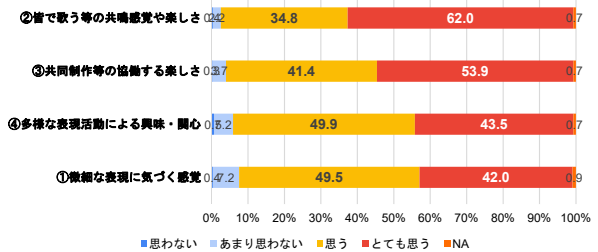
(3) 身近な環境との関わりに関すること



(4) 言葉の獲得に関すること



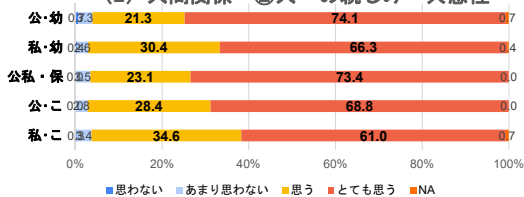
(5) 表現に関すること



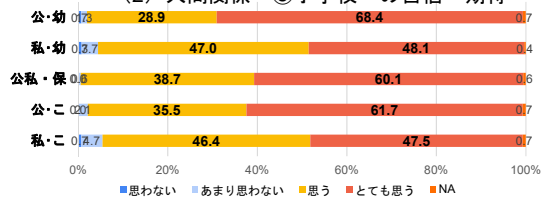
各領域では、(3) ②自然体験や社会体験を通じて優しさや命を大切にする心・逞しさ、(4) ④自己主張や人間関係の調整などコミュニケーション能力、(5) ②皆で歌ったり踊ったりするなどの人と共鳴する感覚や楽しさ等において、「とても思う」が6割以上となっており、人との関わりに関する事項を保育で大切にしたい意向が読み取れる。

1. 【設置主体別】 公立幼・公立こ > 私立幼・私立こ

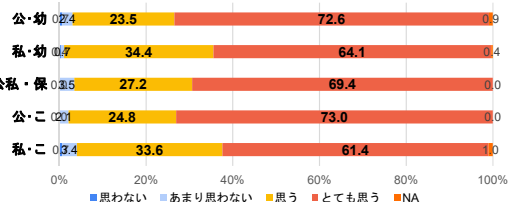
(2) 人間関係 ②人への親しみ・共感性



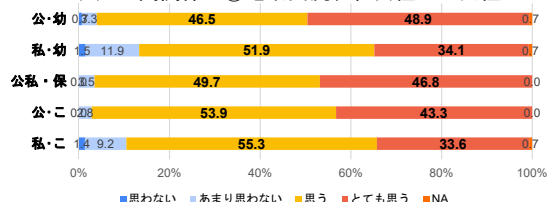
(2) 人間関係 ⑤小学校への自信・期待



(2) 人間関係 ③人と良い関係を築く力



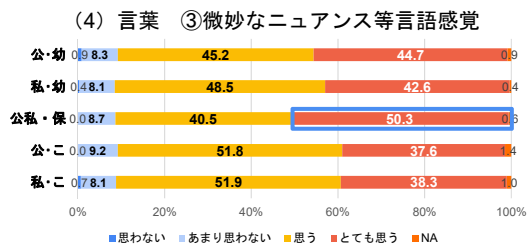
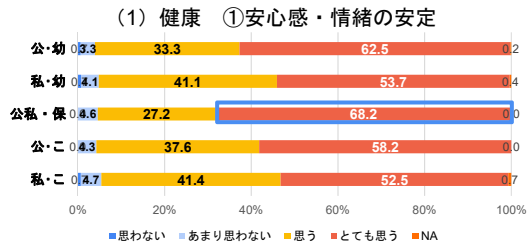
(2) 人間関係 ④地域交流、社会性・公共性



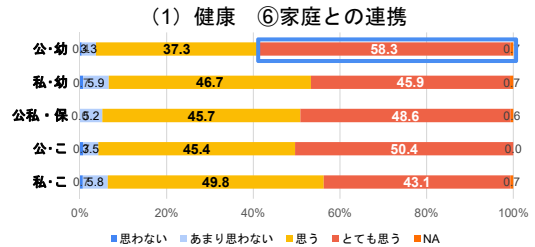
②人への親しみ・共感性や、③人と良い関係を築く力など人と関わる力に関する項目を公私立別で比較すると、公立園に多く私立園では若干少ない傾向が窺われる。

園外との連携の関係項目も、「⑤小学校と連携し小学校への自信・期待を育成」や、「④高齢者・地域交流等による社会性・公共性の育成」など公私立間で差が見られる。(⑤では15~20ポイント差、④では10~15ポイント差)

公私立保育所 > その他



公立幼 > その他



公私立保育所

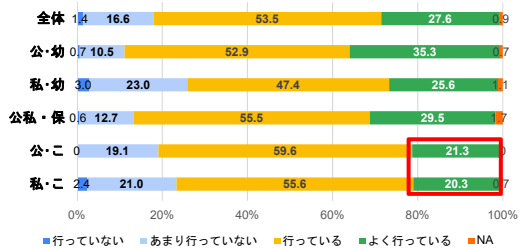
「①情緒的に安心感・安定感をもって生活できること」や、「③微妙な表情や言葉のニュアンス等の言語感覚の育成」は、公私立保育所が他より「とても思う」がやや多い。

公立幼稚園

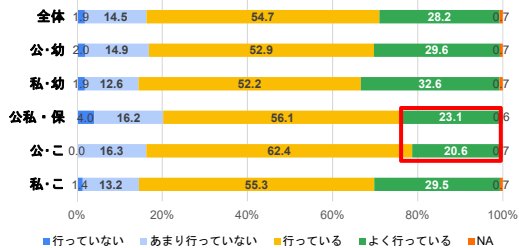
「⑥家庭との連携」（家庭で動画視聴等により生活習慣上悪影響が出ないように、家庭との連携を大切にする）は、公立幼稚園が他より「とても思う」が多い。

2. 遊びや活動、生活環境等で、現在取り組んだり工夫したりしていること

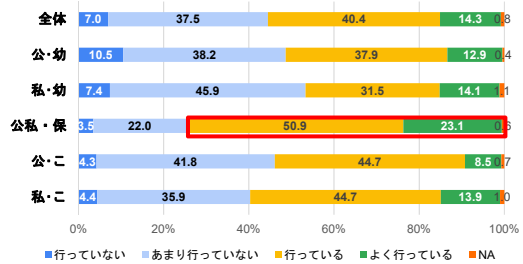
(1) 子ども主体・好きな遊びを増やす



(3) 園内の広い空間利用の活動を増やす



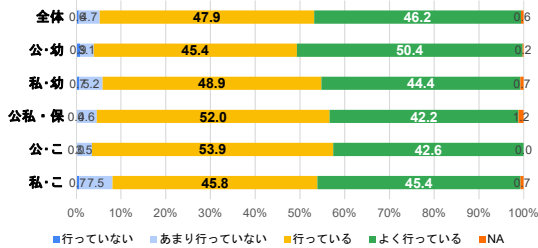
(2) 一斉活動より少人数活動を増やす



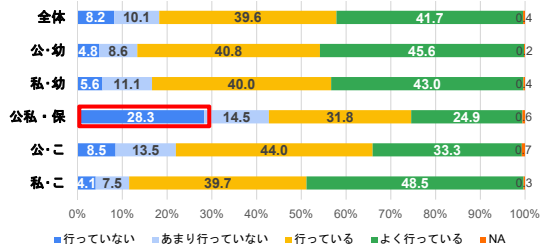
(1) 「行事中心」から「子ども主体」へ転換し好きな遊び等を積極的に増やしている園は、全体で約3割、認定こども園では2割に留まっている。(2) 一斉活動を減らし遊びの拠点分散や少人数活動を増やしている回答は、保育所で多い。しかし、(3) 園内の広い空間を利用した活動の積極的導入は、保育所や公立こども園は約2割に留まっている。

2. 遊びや活動、生活環境等で、現在取り組んだり工夫したりしていること

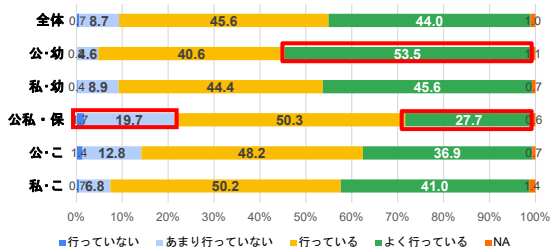
(4) 戸外での運動を増やす



(5) プール・水遊びを実施（夏季）



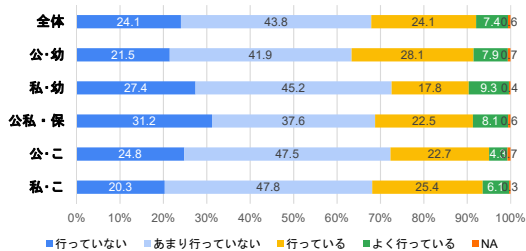
(6) 自然体験・社会体験・園外保育の導入



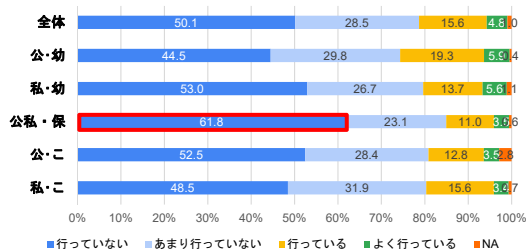
(4) 戸外での運動は全体的に積極的に導入されているが、(5) 全身が水につかるようなプール・水遊びは、保育所で実施していない所が他よりも多い。
 (6) 自然体験・社会体験・園外保育等の直接体験の積極的導入は、公立幼で5割、私立幼・私立こで4割以上であるが、保育所は3割弱と差が見られる。
 これらの違いの背景・理由は何か、コロナ禍の影響があるのか探る必要があるだろう。

2. 遊びや活動、生活環境等で、現在取り組んだり工夫したりしていること

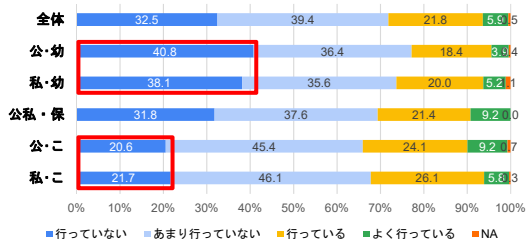
(7) ICT機器活用によるイメージ拡大



(8) 昼食時の黙食・一方着席の導入



(9) 感染予防として遊具素材を厳選



(7) 保育活動におけるICT機器の活用は、全体的に3割程度と多くない。
 (8) (9) 感染対策に関する項目も、多くの園で実施は少数になっている。(8) 昼食時の感染予防は、保育所では6割以上が実施していない。(9) 遊具素材の厳選は公私立幼稚園の4割程度が実施していないが、公立こども園は2割と差が見られる。

3. 今後の保育で特に大切にしたい子どもの育ちは何か

行動制限が撤廃された現在の保育状況について

- ・ 昼食時の黙食などの**感染対策**は多くで**減少**している。
- ・ 一斉活動を削減して**少人数活動**を増やしている園も、予備調査の約8割から5割強に**減少**。
- ・ 行事中心から**子ども主体・好きな遊び**等をよく実施している園は、予備調査と同様3割弱で**横ばい**。
- ・ 園内の**広い空間**を利用してよく活動する園も、予備調査と同様に約3割で**横ばい**。
- ・ 戸外で十分に**身体を動かす活動**をよく実施している園は、予備調査の2割から5割弱に**増加**。

しかし

施設種別・設置主体別により、取り組みに差が見られる

特に、コロナ下では取り組みが困難だった「**自然体験・社会体験・園外保育による直接体験**」や「**地域交流**」「**小学校との交流**」は、差が見られる。
→ 取り組む必要性の確認（意義）、実施の障壁になっている原因・理由を明確にすることが必要。

3. 今後の保育で特に大切にしたい子どもの育ちは何か

「with 感染症」時代の保育において留意すべき事項について

- ① 人との関わりが困難な状況が考えられるため、「**情緒の安定**」や「**繊細な表情・言葉への感覚**」を育てること、「**人への親しみ・共感性・人と良い関係を築く力**」等を育成するように、特に留意する。
- ② 感染予防が優先することで、**子どもの成長・発達にとって必要な様々な経験**が不足していないか、**教育課程や全体的な計画、他園の取り組み**も参考にしながら、絶えず振り返り検討する必要がある。
- ③ **家庭と連携し、情報を共有**しながら、**子どもの成長・発達を支える存在**として一緒に子育てに取り組む。

子どもの視点に立ち、
質の高い幼児教育・保育を保障していく
意識と改善に向けての工夫を！

保育者自身も主体性を発揮し
保育を創ることを
楽しむ！

ご清聴 ありがとうございました

2 園と保護者や地域との関わりと行事等の実施状況

三宅 茂夫

感染拡大期（以後、拡大期）から落ち着きをみせた時期までの、園と保護者や地域との関わりおよび行事等の実施状況やその変化の傾向、保育者の学びや気づきを整理しつつ、記憶し、備えておくべき事項についてまとめた。2021年調査（以降、前回調査）と2023年調査（以後、今回調査）を並べて検討した。双方の調査はサンプル数、実施地域などから比較はできないが、変化の傾向把握のために併記した。調査結果は学会HPの発表資料を参照いただきたい。

1. 園・保護者・地域の関わり

（1）保護者との関わりについて 関わりは時間的・内容的に改善された。保護者会やPTA活動もコロナ前の状況に戻ったが、時期や方法、内容を変更したまま対面実施される割合が高かった。

関わりはオンライン活用など工夫した方法が継続されており、媒介活用に係る設備導入やスキル習得等の検討が必要となる。連携状況は改善されたものの園と保護者、保護者と地域との関係構築の困難さは続いている。園児減などコロナ以外の要因による課題もあり、引き続き地域・社会の実態に応じた関係構築が必要となる。

拡大期の保護者の声や相談、要望等で意外だったのは、保護者は協力的で、拡大期でも保育・行事の実施要望が多かったことである。保護者の就労状況や行事・保育の大切さの認識であり、ライフラインとしての保育施設の重要さが浮き彫りとなった。また、感染に関する園と保護者、保護者間の意識の違い、家庭間の情報格差である。日常の園と保護者、保護者間の関係構築、適切な情報発信と受信確認、園からの丁寧な関わり大切さが考えられる。

保護者との関わりからの気づき・学びは、緊急時ほど保護者は園との関わりを強く求めたため、寄り添い丁寧な対応が必要となり、そこから園への理解が深まったことである。状況認識のための適切な情報発信の重要性も示された。これまでの園と保護者、保護者間の関係を見直し、相互に進展させていくための取組が必要であろう。

（2）地域との関わりについて 機会や関係性は概ね改善され、その大切さも多くの回答に示され、さらに前進させたいとの記述もあった。地域との関わりで工夫された点は、登園時の配慮などが減少する一方で、その他の工夫の継続や情報発信の活発化がみられた。地域との連携を進めつつ、園の活動や発信する情報の内容を地域の視点から捉え直す必要がある。

拡大期に利用された社会資源は、子どもの活動や遊びの場の確保、疾病の予防・治療、園の運営に関するものであった。有事に向けた今後の要望は、子どもの育ちや遊びの場のための施設・機関、保育の場への人的支援、情報システムの整備、保護者の相談先確保であり、代替も含め多様な社会資源の活用可能性や連携の見直し、関係やネットワーク構築など地域の実情に合わせた整備の必要性が考えられる。

地域との関わりの変化の気づきや学びでは、保育や行事、地域との交流、情報発信と収集、学校や他職種との連携、感染対策と状況説明、地域の関わりと子どもの育ち、丁寧な対応の大切さなどが示された。今後は機能する地域の園としての認識を深め、具体的結びつきを構築し、深めていく必要が考えられる。

2. 行事等

コロナ前に戻す園が増えたものの、依然として内容や方法、時期の変更、見直しや精選により実施する園もあった。コロナ禍を境に園児数減少などの影響を受ける場合もあった。

コロナ下で行事は小規模実施など工夫して行われたが、間近で参観できるなどの理由でそうした方法を継続実施する園も多い。行事により、従来のように実施したい園と保護者の要望に乖離が生じ、苦慮する状況も示された。ねらいを保護者に丁寧に説明し、要望にも耳を傾け、子どもの育ちを第一に検討される必要がある。

行事の選定・計画・実施等での気づき・学びでは、行事の復活を目指す意見や、コロナ禍前へ安易に戻さず、子どもの主体性や育ちから再評価・検証・精選・変更に関する意見が多かった。

職員の働き方改革、園や保育者の負担軽減を理由に行事の縮小・削減を考える意見もあった。保育者不足が問題となるなか、労務等の問題は早急に検討・改善されるべきであるが、子どもの最善の利益や保育を受ける権利を阻害しないことを前提に議論されるべきである。

コロナ禍は、保育に携わる者が保育の不易・流行を考え、行事や保育を一体となって見直し、考え、学び、取り組む契機となった。この機運を大切に、コロナ下での取組をテキストに保育者の資質を高める各種研修等の機会を整備していく必要がある。

3. 課題研究を終えるにあたり

一連の課題研究を通して、今後に向けて以下のことを記しておきたい。

(1) 不安な時、危機的な状況で、人は人との関わりや絆を求める コロナ禍は究極の状況での人間関係の大切さを痛感させ、関係を見直す契機ともなり、日頃築かれた社会的繋がりにより支え合い、協力し合いながら乗り越えることができた。コロナ禍で多く的人是は孤独や孤立、不安に苛まれるなかで互いに寄り添い、思いやり、園からの丁寧な関わりは地域・園・保育者・子ども間の人間関係や信頼感を生み、深め、信頼が相互の深い理解と絆を育んだ。今後、社会的な関わりや絆が積極的に構築されていく社会に期待したい。

(2) 何を危機とし、どう連携し、どう対応・対策するか コロナ禍は収束したが果たして危機は遠ざかったのであろうか。今後、何を危機と捉え、危機回避に向けて何を備え、誰が、どこが、どう連携するかが課題となろう。拡大期では隣接する組織との連携だけでは対応が困難なことも多く、危機の判断と対応の敏捷性・柔軟性、連携体制構築などが課題となる。未知の危機に備え、社会資源を含め地域の実情にあった広範囲な連携体制と要となるプラットフォームづくりなどが必要となろう。

(3) 時代の大きな転換点となった コロナ禍は多くの変化をもたらした。コロナ禍で、収束後の回復・修復などの局面で、新たなものが生成されたり、コロナ禍前の課題に向け新たな取組が始まったりしたこともあろう。しかし、好ましいもののみならず様々なものが生成される可能性があり、変化や生成された(る)ものを整理・評価していく必要がある。子どもにとってよりよき時代となるための我々の智慧と賢明さが求められる。

日本保育学会第77回大会 課題研究委員会シンポジウム

研 究 報 告

「with 感染症」時代における保育と子どもの育ちを考える
—全国調査の結果から見えてきたもの—

園・保護者・地域の関わりと行事实施における
コロナ下での学びとこれから

2024. 5. 12
課題研究委員 三宅 茂夫 (神戸女子大学)

目 次

I 保護者や地域との関わりについて

- 1 保護者との関わりについて
- 2 地域との関わりについて

II 行事等について

- 1 行事の実施について

まとめ

本発表について

- コロナ感染症も5類となり、拡大当初の深刻な状況の記憶は過去のものとなりつつある。それらを過去のもので終わらせるには、あまりに多くの犠牲と甚大な影響を強いられるものであった。一方で、そこから多くのことも学んだ。再び来るかもしれない未曾有の危機に対し、これまでの記憶と経験、工夫から生まれた智恵と技を整理し、備えていく必要を痛感する。
- 本発表は、コロナ禍の状況、感染拡大期(以後、拡大期)から今日までの、保護者や地域との関わりおよび行事等の実施状況やその変化の傾向、その間の保育者の学びや気づきを整理しつつ、記憶しておくべき事項についてまとめる。多大なるご協力により膨大なデータの提供をいただいたが、今回の発表ではその一部を報告する。
- 2021年調査(以降、前回調査)と2023年調査(以後、今回調査)を比較検討しているが、本来双方の調査はサンプル数、実施地域などが異なり、単純に比較はできないが、変化の傾向をつかむことを目的に併記した。

I 保護者対応や地域との関わりについて

1 保護者との関わりについて

(1) 時間的变化と内容的変化

時間的变化 (対面)	2023年 (%)	変化の 傾向	2023年 (%)	変化の 傾向
①とても短くなった	1.0	↓	10.0	↓
②短くなった	9.0	↓		
③変わらない	53.6	↑	53.6	↑
④長くなった	33.2	↑	36.4	↑
⑤とても長くなった	3.2	↑		
⑥その他	0.0	—	0.0	—

2021年 (%)	2021年 (%)
13.3	67.1
53.8	
31.9	31.9
0.5	1.0
0.5	
0.0	0.0

- ❖ 今回調査では、前回調査に比べ、対面・対面以外で時間的に短縮したが減少傾向にあり、長くなったが増加傾向にある。「変わらない」はコロナ前からこれまでを通して多数を占めた。
- ❖ 関わりの内容は前回調査と変化し、「変わらない」が今回調査では最も高い割合となった。
- ❖ 「その他」:ICT化促進による量の増加、意識変化、質の高まり+量は変わらない、個別の関わりの増加、質の維持+量の増減、保護者同士の関わりに対する懸念、預かり保育利用者増の影響 など

時間的变化 (対面以外)	2023年 (%)	変化の 傾向	2023年 (%)	変化の 傾向
①とても短くなった	1.2	↓	6.3	↓
②短くなった	5.1	↓		
③変わらない	74.9	↑	74.9	↑
④長くなった	17.6	↑	18.8	↑
⑤とても長くなった	1.2	↑		
⑥その他	0.0	—	0.0	—

2021年 (%)	2021年 (%)
2.0	26.9
24.9	
66.3	66.3
6.8	6.8
0.0	
0.0	0.0

内容的変化	2023年 (%)	変化の 傾向	2021年 (%)
①量的にも、質的にも減少・低下した	5.2	↓	27.8
②量的には減少したが、質的には高まった	10.8	↓	25.9
③量的には増加したが、質的には低下した	1.9	↑	0.9
④量的にも、質的にも増加・高まった	32.3	↓	41.5
⑤変わらない	48.7	↑	3.8

(2) 保護者会・PTA活動の実施状況

設問内容	2023年	変化の	2023年	変化の	2021年	2021年
	(%)	傾向	(%)	傾向	(%)	(%)
①活動を凍結したまま	1.6	↓	1.6	↓	10.3	10.3
②コロナ禍以前のように実施	36.7	↑	38.3	↑	8.9	8.9
③コロナ禍以前よりも頻繁に実施	1.6	—				
④時期や方法、内容を変えて実施 (対面中心)	43.4	↑	50.6	↓	33.3	70.4
⑤時期や方法、内容を変えて実施 (対面以外中心)	7.2	↓				
⑥コロナ禍以前から実施して居なかった	7.3	↑	7.3	↑	6.6	6.6
⑦その他	2.2	↓	2.2	↓	3.8	3.8

- ❖ 前回調査で最も多かった対面以外での実施は、今回調査では減少傾向となり、コロナ禍以前のやり方で実施するようになった園が増加傾向となった。
- ❖ 時期や方法、内容を変えた対面での実施は、今回調査でも前回調査と同様に最も高い割合となった。

- ❖ 今回調査では僅かな割合ではあるが、活動が凍結されたままや、コロナ禍以前より頻繁に実施などの園もあった。
- ❖ 「その他」: 縮小による実施、ICT活用などによる対面と非対面のハイブリッド形式、なくす など

(3) 保護者とのかかわりでの工夫

設問内容	2023年	変化の	2021年
	(%)	傾向	(%)
①オンラインでの保護者会や保育参観等の開催	6.2	↓	10.3
②保育参観の分散・少人数による実施	53.4	↓	78.0
③登園・保育・行事等の事前・事後の保護者への丁寧な説明会の開催 (強制を伴わない)	27.2	↑	19.2
④子どもの様子などについて、定期的で間接的な方法 (オンライン、電話等) による家庭への連絡	26.4	↑	15.5
⑤気持ちに寄り添った懇談の機会確保のため、面談形式による懇談会を実施	53.6	↑	33.8
⑥「滞在時間を短く」「できるだけ話を最小限にするなどの合理的な配慮の実施	21.4	↓	62.0
⑦特に何も行っていない	9.9	↑	1.9
⑧その他	5.8	↓	8.9

- ❖ 感染状況の鎮静化からか、特に配慮しないの増加や合理的配慮の実施などは減少傾向にあるが、面談形式での懇談会や子どもの様子の間接的方法(オンライン等)による連絡、丁寧な説明会の実施などが増加傾向にあり、工夫した関わりを継続している。

(4)保護者との連携の状況について

設問内容	2023年 (%)	変化の傾向	2021年 (%)
①園と保護者との意思の疎通が難しくなっている	8.5	↓	20.7
②園の保育方針や理念、保育者の保育観等を伝える機会が減少し、理解者を増やすことが難しくなっている	15.6	↓	24.9
③子どもの園や家庭での様子、子どもの育ちの状況について、互いの詳細な情報共有が難しくなっている	11.1	↓	30.0
④子どもの育ちに向けた保護者と園、保育者との連携が難しくなっている	9.6	↓	19.7
⑤保護者間の関係づくりが難しくなっている	28.6	↓	33.8
⑥保護者と地域の間関係づくりや維持が難しくなっている	25.8	—	—
⑦コロナ禍以前と変わらない	46.4	↑	34.7
⑧その他	2.8	↓	3.8

- ❖ 前回調査よりも連携は概ね改善の傾向にあるが、保護者との関係づくりや保護者と地域の関係づくりの困難さは、今回調査でも一定の割合で示された。コロナ禍の影響の一方で、時代的・社会的な要因による課題も考えられる。
- ❖ 「その他」: 保育園に変わる人がコロナ禍前よりも増え、園児数が減少した、新たな連携方法の模索・開発で意思疎通や連携が取りやすくなった など。

(5)コロナ禍からの学びとこれから

①感染拡大期の保護者の声や相談、要望等で、意外だった・予想外だと思ったこと

●内容の概要(数字は回答数)

➤行事に対する保護者の反応、対応(120程度)

マスクに関すること(96)

想定以上に協力的だった(74)

大きな要望、苦情、無理な相談等がなかった(60程度)

感染者が出た際の様子、対応(40程度)

感染対策に対する、園側と保護者との意識の差、また、保護者間の意識の差(寛容派と慎重派)が大きかったこと(34)

感染拡大期の中、園や保育者が努力していることに対し保護者から感謝の声が多く寄せられたこと(21)

家庭ごとの情報格差の二極化(20程度)

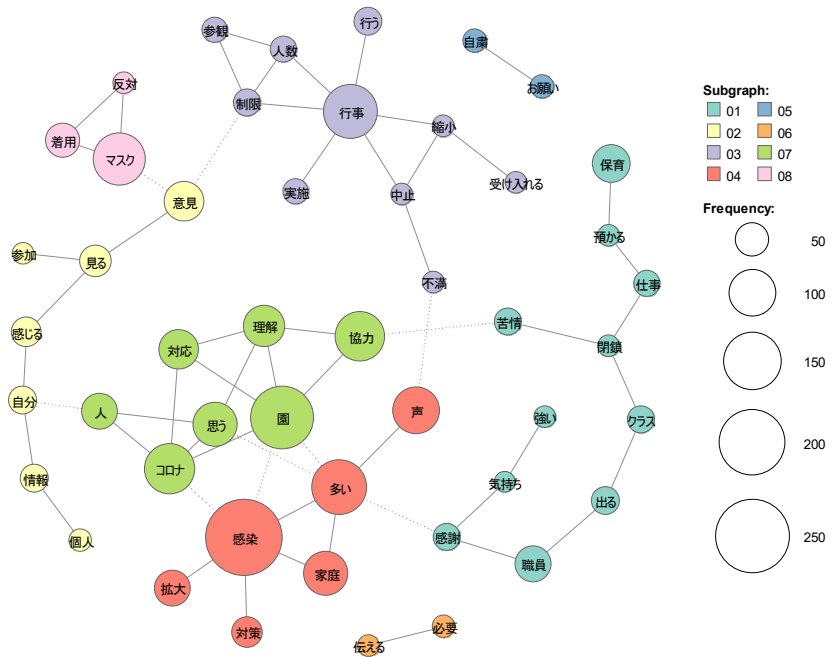
想定内だった(6)

ワクチンに関する事項(4)

コロナ初期の様子、健康管理、登降園について など

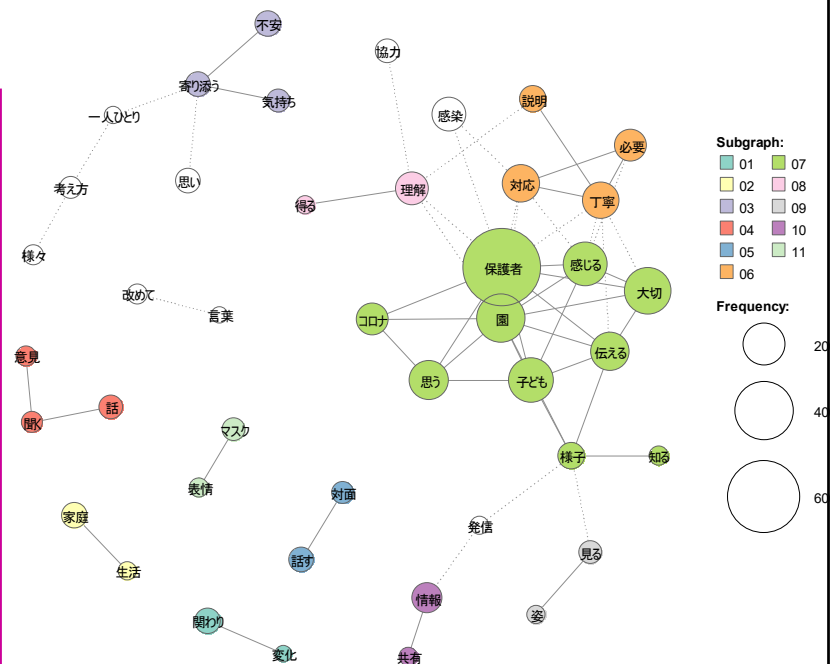
(6)保護者からの 予想外・意外な相談・要望

- ❖ 中心事項—「行事」「マスク」「園」「コロナ」「感染」「職員」「保育」
- ❖ 「感染」—感染や対策などに関する考え方や思いに格差、多くの声(意見・要望)
- ❖ 「園」—厳しい園からの協力依頼や対応については多くが理解、一部は不満
- ❖ 「マスク」—反響大、着用と反対に大きく分かれた
- ❖ 「行事」—拡大期においても多くは開催を希望、対策を講じての実施に理解と感謝、制限・中止に不満も
- ❖ 「職員」—感謝の気持ち
- ❖ 「保育」—できるだけ預かってほしい、休園への苦情



(7)保護者との関わりからの 気づき・学び

- ❖ 中心事項—「保護者」「園」「対応」「寄り添う」「理解」「対面」「情報」「関わり」「マスク」「寄り添う」「聞く」
- ❖ 「保護者」—子ども・保護者・園の関係の大切さへの気づき
- ❖ 「園」「情報」—園での子どもの様子を知りたいという保護者の強い思いがあること、園からの情報発信・共有の必要性
- ❖ 「対応」「理解」—混乱期の多様な認識や不安感増大に対して個々への丁寧な説明と対応が保護者の理解や協力を得るために必要
- ❖ 「関わり」「マスク」「対面」「聞く」「寄り添う」—保護者との関わりの変化と難しさ、個々との丁寧なコミュニケーションの重要性



2 地域との関わりについて

(1)地域との関わりの機会の変化について

設問内容	2023年		2023年		2021年		2021年	
	(%)	変化の傾向	(%)	変化の傾向	(%)	(%)	(%)	(%)
①とても増加している	4.2	↑	32.5	↑	0.0	0.0	0.0	0.0
②増加している	28.3	↑						
③変わらない	23.9	↑	42.4	↓	3.3	95.7	51.4	1.0
④減少している	35.8	↓						
⑤とても減少している	6.6	↓						
⑥その他	1.3	↑						

- ❖ 前回調査に比べ、機会の減少は著しく減少傾向となり、増加は大きく増加傾向がみられる。
- ❖ 今回調査で、前回調査から変わらずとの回答も一定数あり、関わりの機会が回復していない状況もある。

❖ 「その他」(数字は回答数):関わる団体や内容を変更している(5)、コロナ禍以前に戻るには、さらに時間が必要 など。

(2)地域の方々との関係性の変化について

設問内容	2023年		2023年		2021年		2021年	
	(%)	変化の傾向	(%)	変化の傾向	(%)	(%)	(%)	(%)
①とてもよくなっている	3.7	↑	26.2	↑	0.5	1.0	0.5	8.0
②よくなっている	22.5	↑						
③変わらない	66.9	↓	4.9	↓	87.3	8.0	7.5	0.5
④悪くなっている	4.9	↓						
⑤とても悪くなっている	0.0	↓						
⑥その他	1.9	↓						

- ❖ 前回調査から今回調査を通して、変わらないとの回答も多かったが、関係改善は増加、悪化は減少傾向にある。

❖ 「その他」:関わる機会が少なくなっている(8)、交流内容の変化(4)、地域の行事を中止していた期間があったため回復していない(3)、どちらともいえない(3)、疎遠になっている、園への意識が薄れている(2)、相手先により良くなっているところがあれば、思うように回復しないところもある、戻りつつある、5類に移行してから交流が復活し、関係性もよくなった など。

(3)変化の理由について

設問内容	2023年 (%)	変化の傾向	2021年 (%)
①行事や活動の縮小などにより、園が地域からの支援やかかわりを制限したため	34.5	↓	60.4
②コロナ感染拡大の不安により、地域から園への要望や苦情などが増加したことが未だに尾を引いているため	1.2	↑	1.0
③コロナ禍を契機に地域一体となった園への支援が活発化したため	3.1	↑	0.5
④コロナ下においても、園から地域にそれまで以上の積極的なかかわりを実施してきたため	5.3	↑	2.5
⑤状況が落ち着いてきたので、積極的に地域とのかかわりを増やしてきたため	38.5	—	—
⑥コロナ禍以前と何も変わらない	26.6	↓	30.5
⑦その他	4.4	↓	5.1

- ❖ 前回調査では、多くの園で地域との関わりに制限を受けていたが、今回調査では回復傾向がみられる。
- ❖ 前回、今回の調査を通して、関係性は変わらないとの割合も一定数あるが、状況の落ち着きにより、これまでの関わりの制限から、積極的な関わりへと転じる傾向が示された。

- ❖ 「その他」: 地域主催の行事の見直し(15)、互いに様子見の状況が継続(5)、交流先の施設が制限を行っている(5程度)、園と交流施設との繋がり維持のための工夫を継続(4)、交流先の高齢化の進行(2)、通園範囲が広く、元々地元意識が低く変化がない、小規模園でもともと地域と密着しておりコロナ禍でも継続 など。

(4)コロナ下における地域とのかかわりで工夫した点について

設問内容	2023年 (%)	変化の傾向	2021年 (%)
①園の感染対策や感染状況を積極的に地域へ情報発信している	11.9	↓	18.7
②コロナに関するもの以外の園に関する情報を積極的に地域へ発信している	30.0	—	—
③窓口を設け、地域からの要望や苦情などに対して丁寧な対応を行っている	7.0	↑	0.7
④感染対策を徹底した上で、できるだけこれまでの地域とのかかわりを継続している	49.5	↑	16.2
⑤保護者に地域への配慮などについて説明し、協力を要請している	17.5	↑	16.2
⑥登園時間や方法、人数などについて配慮している	7.3	↓	26.3
⑦特に何も行っていない	21.0	↑	17.3
⑧その他	2.3	↓	4.7

- ❖ コロナ拡大期から、配慮をして関わりを継続する園が増加傾向であるが、何も行っていない園もある。
- ❖ 登園などの配慮は、減少傾向にある一方で、コロナ禍での工夫はその後も継続され、情報の発信も活発化の傾向がみられる。

- ❖ 「その他」: 手紙の配布・地域通信の活用等(3)、何事も迅速な対応を行う(3)、自治体掲示板の活用、まちづくり会議などでの園の様子の発信、地域の人々への挨拶や声掛けの推進、地域の子育てサークルとの連携、近隣の老人サークルとの交流、地域の未就園児親子への保護者支援、相手のコロナへの意識を見てTPOに応じて対応 など。

(5) コロナ感染拡大期において利用された社会資源などについて

社会資源名	2023年 (%)	社会資源名	2023年 (%)
①児童館	66.6	⑫美術館・博物館・文化科学館等	6.9
②児童相談所	14.8	⑬公園	27.4
③相談業務を行うカウンセラーや関係機関	19.8	⑭民間スポーツ施設	2.0
④学校	36.8	⑮公共スポーツ施設	5.4
⑤他の保育施設	18.6	⑯民間遊戯施設	2.2
⑥保健所	38.2	⑰公共遊戯施設	5.6
⑦病院・医療機関	53.1	⑱行政機関	35.7
⑧警察	5.7	⑲イベント企画運営会社	1.9
⑨警備会社	4.8	⑳各種団体等の開催するイベント	4.3
⑩図書館	9.5	㉑その他	5.7

赤数字: 50.0%以上、青数字: 49.9~30.0%、緑数字: 29.9~20.0%

- ❖ 子どもの活動、遊び場の確保や 疾病の予防・治療、園の運営のために児童館や病院・医療機関、公園や行政機関などをよく利用。
- ❖ 「その他」: 消防署(6)、寺院・神社(4)、公民館(3)、地域の山林・河川敷・海等(3)、大学・学園の施設(3)、公共の宿泊施設(2)、近隣の農地(2)、人形劇団等(2)、民間企業(2)、地域のショッピングセンター、薬剤師会検査センター、教会、保護者が運営する趣味の講座、地域の区民活動センターなど

(6) 感染拡大期において、活用したい、要望する地域の社会資源 (自由記述)

◆社会資源名等(数字は回答数)

- (さまざまなことを)相談しやすい窓口(20程度)
- 正確で迅速な情報システムの確立(15程度)
- 代替保育者の派遣の拡大(10) 病児保育施設(10)
- 公共、民間施設利用のサービス向上(10程度) 自然体験(10程度)
- 自由な子どもの遊び場(10程度)
- ICTを活用できる環境(8)
- 心理カウンセラーへの気軽な相談窓口(5) 出張消毒サービス(5)
- バス・電車など安心して使える乗り物(5) 講師派遣など(5)
- 家庭内感染時の対応システム(5) 出張イベント(5)
- 大学、附属学校園の施設利用(5)
- 子育て支援施設の拡充(4)
- 支援を要する園児をもつ保護者への支援体制 シルバー人材派遣 など

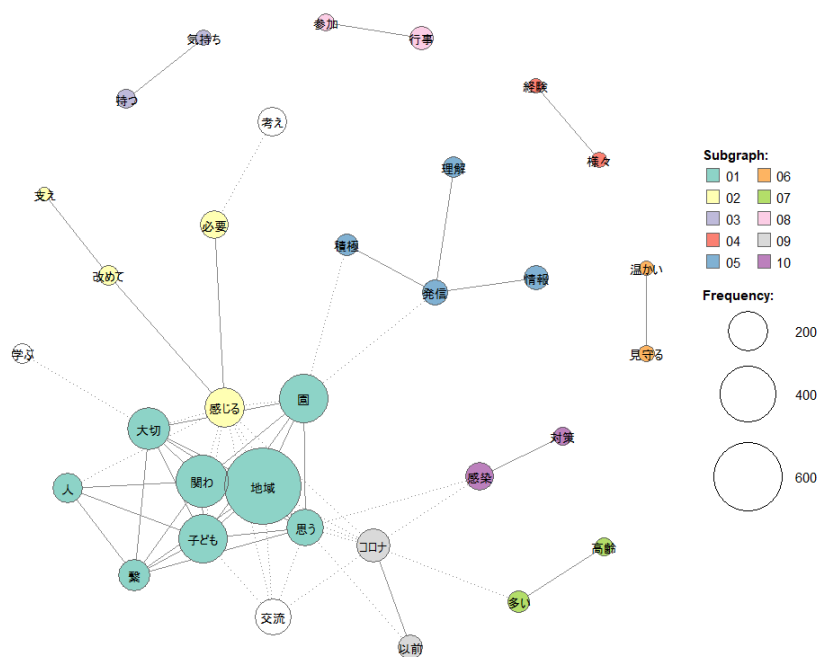
(7) コロナ禍での地域との関わりの変化への気づきと、関わりの学びについて

◆内容(自由記述、数字は回答数)

- 保育、地域交流、行事、集まり方の見直しについて(80程度)
- 情報の発信・収集・共有について(70程度)
- 他施設、学校、他職種との連携について(50程度)
- 地域の方々からの園へのアプローチについて(50程度)
- 徹底した感染対策と説明、その明示について(45程度)
- 地域の関わりと子どもの育ちについて(30程度)
- 日頃のコミュニケーション・関わり大切さについて(20程度)
- 対面で会うことの意味と大切さについて(15程度)
- 保護者・地域への丁寧な対応の大切さについて(15程度) など

(8) 地域との関わりからの
気づき・学び

- ❖ 中心事項「地域」「子ども」「園」「大切」「関わり」「人」「繋(がり)」「交流」「情報」「発信」「必要」
- ❖ 「地域」「子ども」「大切」「関わり」「繋(がり)」「人」ー地域と子ども、地域と園における人と人との繋がりは大切
- ❖ 「情報」「発信」ー積極的な情報 発信により、地域からの理解を得る
- ❖ 「コロナ」「交流」ーコロナ禍においても地域との交流の大切さへの思い



II 行事等について

1 行事の実施について

(1) コロナ下における行事の実施状況について

設問内容	2023年 (%)	変化の傾向	2021年 (%)
① コロナ禍以前に戻して、ほとんどの行事を実施している	41.1	↑	0.0
② できるだけ中止は避け、内容や方法、時期を変更して実施している	30.5	↓	75.0
③ 多くの行事を中止し、可能なものは従来の内容で実施している	0.4	↓	8.5
④ カリキュラムレベルで行事の見直しを行い、行事のあり方や精選を行い実施している	26.8	↑	15.6
⑤ その他	1.2	↑	0.9

- ❖ 今回調査では、ほとんどの行事をコロナ禍以前のように実施する園の割合が最も高い。
- ❖ 落ち着きがみられる現在も依然として内容や方法、時期の変更、行事の見直し・精選により実施する園も少なからずある。
- ❖ 行事のあり方は、コロナ禍に起因するものだけでなく、コロナ禍を契機にその他の要因で変化せざるを得ない場合もある。

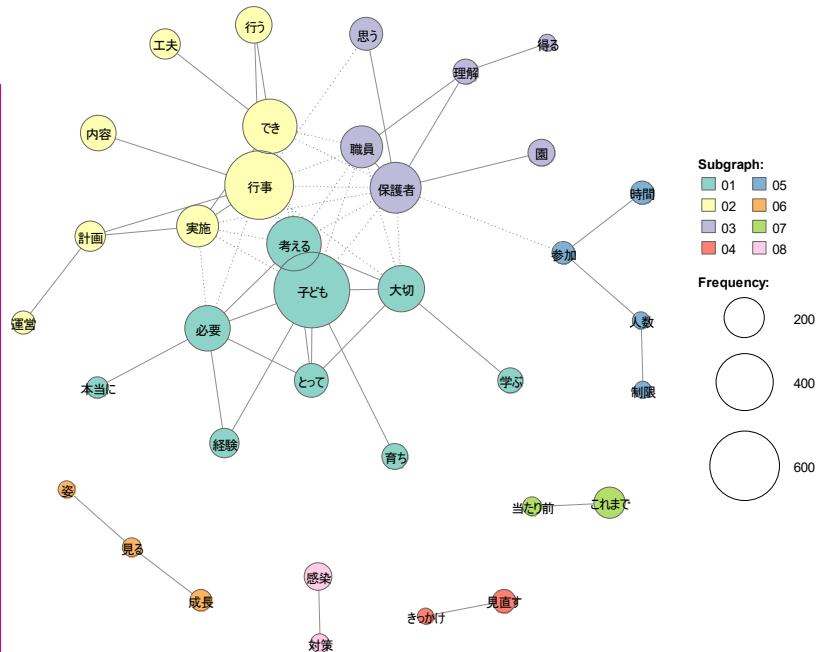
- ❖ 「その他」: 幼稚園の行事は、職員やPTA役員と相談しながら行っている。地域行事は隣接する小学校や地域の方々と話し合っている。園児数が激減しており、あり方を変えざるを得ないものもある。コロナ禍で工夫した内容をさらに精選し、園児や職員に過剰な負担にならない実施方法に変更している など。

(2) 具体的な行事の実施状況について

- ◆ 前回・今回調査ともに従来の方法で難しい場合も内容等の工夫により概ね実施
- 24の行事のうち前回調査で15行事、今回調査で18行事がいずれかの内容・方法で70%以上の園で実施(以下は70%以上のもの)
 - コロナ禍以前の内容で実施された行事(以下、青文字は不変、緑文字は今回新たに追加)
 - ・ 前回調査—避難訓練、飼育・栽培・収穫体験
 - ・ 今回調査—避難訓練、飼育・栽培・収穫体験、始業式、終業式、誕生日会、交通安全指導、遠足、園外保育、健康診断・各科検診
 - 内容や方法、時期を変更して実施された行事
 - ・ 前回調査—入園式(入所式)、卒園式、運動会、発表会、保育参観、始業式、終業式、誕生日会、夏祭り、交通安全指導、遠足、健康診断・各科検診、お別れ会、園外保育、保幼小連携に関する活動
 - ・ 今回調査—入園式(入所式)、卒園式、運動会、発表会、保育参観、園庭開放
 - 実施されなかった行事
 - ・ 前回調査—敬老会・高齢者と関わる活動、園庭開放、保幼小連携に関する活動、地域連携に関する活動、お餅つき
 - ・ 今回調査—敬老会・高齢者と関わる活動

(3)行事の選定・計画・実施等での気づき・学び

- ❖ 中心事項—「子ども」「行事」「保護者」「職員」「感染」「参加」「これまで」「見直す」「成長」
- ❖ 「子ども」「成長」—行事は子どもの成長・育ちや学びの経験にとって必要・大切。
- ❖ 「行事」—行事はできる限り実施する必要がある。実施については、計画段階で内容や運営方法等を工夫し、できるように考える。
- ❖ 「保護者」—保護者にとっても行事は大切、園や職員と理解を図り、できるようにするための連携が必要。時間や人数などの制限も受け入れてもらう必要がある。
- ❖ 「これまで」「見直す」—今後の行事のあり方を子ども主体におき、「これまで」を払拭していく。



■まとめと今後に向けて

I 保護者や地域との関わりについて

1 保護者との関わりについて

- 保護者会・PTA活動はコロナ前の方法で実施するようになったが、時期や方法、内容を変えたまま対面で実施される割合が最も高かった。コロナ前から実施していない園でも、コロナを契機に実施を望む保護者も出ており、今後実施の検討が必要となろう。
- 関わりは感染状況が落ち着いた現在も質の見直しやオンラインの活用など工夫をした方法が継続しており、新たな媒介活用のための設備導入やスキル獲得などの検討が必要となろう。
- 連携状況は改善されたが、園と保護者や保護者と地域間の関係づくりの困難さは継続している。コロナ禍の影響以外に、時代的・社会的な要因による課題も示され、引き続き地域や社会状況にあった関係構築の取組が必要となろう。
- 拡大期の保護者の声や相談、要望等で意外だったのは、コロナ下で保護者は協力的であり、拡大期でも保育・行事の実施要望が多かったこと。保護者の就労状況や行事・保育の重要性の意識によるものと考えられ、ライフラインとしての保育施設の重要さが浮き彫りとなった。また、感染対策に関する園と保護者、保護者間の意識の違い、家庭間の情報格差などがあげられた。今後も日常の園と保護者、保護者間の関係性構築、適切な情報の発信と受信確認、園からの丁寧な関わりや説明の促進が考えられる。
- 保護者との関わりからの気づき・学びは、緊急時であるほど保護者は園との関わりを強く求め、寄り添い丁寧に対応する必要があった。そこから園への理解が得られる。また、状況認識のために適切な情報発信の重要性が示された。これまでの園と保護者、保護者間の関係性を見直し、さらに相互に発展させていくための取組を進めていく必要がある。

2 地域との関わりについて

- 地域との関わりの機会や関係性は概ね改善されたが、今回調査でも変わらずとの回答もあり、実態をさらに確認する必要がある。地域との関係の重要性は多くの回答で得られており、関わりをさらに積極的なものへ転じたいという回答もあった。
- コロナ下、地域とのかかわりで工夫された点は、登園などの配慮は減少する一方で、その他の工夫の継続や情報発信の活発化がみられた。地域と連携を進めつつ、園の活動や発信する情報内容などを地域の視点で捉え直してみる必要がある。
- 拡大期に利用された社会資源は、子どもの活動や遊び場の確保、疾病の予防・治療、園の運営に関するであった。今後、有事に向けての要望から、子どもの育ちや遊び場の確保、保各施設・機関育の場への人的支援、情報システムの整備、保護者の相談先の確保などについて、代替も含めて多様な社会資源の利用可能性や連携を見直し、相互の関係構築やネットワークの整備をしていく必要がある。
- 地域との関わりの変化への気づきや学びでは、保育や行事、地域との交流、情報の発信・収集、学校や他職種との連携、地域からのアプローチ、感染対策と説明、地域の関わりと子どもの育ち、対面での関わりの大切さ、地域への丁寧な対応の大切さなどについて示された。今後はさらに地域の園としての認識を深め、具体的な結びつきを構築し、深めていく必要がある。

II 行事等について

1 行事の実施について

- 行事をコロナ以前のように実施する園の割合が高くなったものの、現在でも依然として内容や方法、時期を変更し、見直しや精選して実施する園もある。コロナ禍を契機に園児数の減少など他の要因により、あり方を変えざるを得ない場合もあった。
- コロナ下で行事は小規模実施など工夫して行われた。今回調査でも子どもを間近で参観できるなどの利点から、変更した方法で継続実施する園も多い。行事により、従来のように実施したい園と保護者のニーズの齟齬から、苦慮する実態も述べられた。行事のあり方は、ねらいを保護者に丁寧に説明しつつ、要望にも耳を傾け、子どもの育ちを第一に検討される必要がある。
- 行事の選定・計画・実施等での気づき・学びは、多くの行事の完全復活を目指す意見とともに、コロナ前には安易に戻さず、子どもの主体性や育ちの面から行事の再評価・検証・精選など検討の必要性を述べたものが多い。
- コロナは保育の不易・流行について考え、行事を含め保育を(教)職員が一体となって見直し、学び・取り組んでいく契機となった。こうした機運を大切に、コロナ下での実践をテキストに、保育者の資質を高めるための研修等の機会を整備していく必要がある。
- 職員の働き方改革や負担の減少を理由に、縮小を考える意見もあった。保育者不足が社会問題化する中、保育者の労務の問題は早急に検討される必要があるが、子どもの最善の利益や保育を受ける権利を阻害しないことを前提に議論されるべきであろう。

3 「園での取組「ICT等の活用」「子どもの育ちへの影響」の捉え

西山 修

1. SCTによる記述データのテキストマイニングから見えてきたもの

コロナ下、各園では保育者の工夫と努力によって様々な取組がなされてきた。今、振り返り、保育現場では、これらの自らの取組をどのように捉えているのだろうか。文章完成法（SCT）による記述データのテキストマイニングから、うまくいった取組として、「園行事での工夫・協働」「日々の感染対策」「園・家庭との連携による健康管理」「密を避けたクラス活動」「動画配信・情報発信」が挙げられた。安全を守り、また、子どもの育ち、家庭との連携を維持するため、前向きに取り組む姿が表れている。一方、うまくいかなかった取組として、「園行事の制限・中止」「感染予防」「消毒の徹底」「マスク着用」「保護者の理解」「地域交流の機会」「コミュニケーションの不足」「動画配信・情報発信」が挙げられた。

うまくいった取組、うまくいかなかった取組ともに、主要な頻出ワードのまとまりに付けられたラベルは、ほぼ同じとなった点は注目に値する。コロナ等の感染症に関わる留意のポイントは、これらのラベルに示された内容と考えられる。また、うまくいった取組については、殆どの園で記入されているのに対して、うまくいかなかった取組については、「特にない」「思いつかない」などの回答が多かった。明らかに「ない」と答えた園は197園（全体の約15%）であった。

コロナ禍を経て、自園が何を経験したと捉えているか広く尋ねたところ、その記述には「子ども」「保育」「行事」「見直し」「感染」「大切」などの語が頻出していた。改めて保育を見つめ直し、本当に大切なものは何か思案されたことが伺えた。SCTとしてはニュートラルな問い掛けをしたにもかかわらず、全体的に非常に前向きで、保育現場の力強さを感じる記述が多かった。具体的には、「今まで当たり前だったことがガラッと変わる経験に（中略）子どもたちの成長にとって必要な行事内容を考えながら進めている」「チャンスとばかりに、行事を『こどもまんなか』に変えていった」「オンライン研修等、以前より多様な研修を受ける機会が増えた」「感染症への対応や対策を身に付けた」「教育課程全般の見直しが進んだ」などを挙げることができる。

子どもの育ちを保障していくため、各園ではICT等をどのように捉え、どの程度活用されたのだろうか。まず、コロナ下と現在における、園でのICT等の関心度を尋ねたところ、現在の関心度はコロナ下に比べ有意に高かった。園の種別では、公立幼稚園、公立こども園で有意な上昇が見られた。前回調査では、コロナ下の関心度は、コロナ前に比べて有意に上昇していることが示されたが、今回の結果から、全体としてさらに関心は高まっていることが示された。次に、園でのICT等の活用度を尋ねたところ、現在の活用度は、コロナ下に比べ有意に高いことが示された。ただし、前回調査と同様に、園の種別による差は大きく、標準偏差も大きかった。コロナ禍を通じて、ICT等への関心は全体として高まった中で、その活用では各園に差も生じていると考えられる。園の理念や方針とも関わり、必ずしも全ての園で、活用度が上がればよい訳ではないだろう。しかしながら、前回の調査では、「そもそも環境が整っていない」「園児数が非常に少なく、予算面でも厳しい」などの回答が、活用度が上がらなかった園で見られた。「家庭との関係づくり」や「働き方改革」の面で成果を上げている園もあり、活用を望む園へは適切な支援が求められる。

2. 自園での子どもの育ちへの影響

課題研究委員会では当初から、コロナ下での「子どもの育ち」への影響を憂慮し、調査研究の1つの焦点としてきた。コロナ禍による子どもの育ちへの影響を保育現場は今、どのように捉えているのだろうか。テキストマイニングでは、自園での子どもの育ちについて、「人と関わる力」「経験不足」「マスク着用による表情の見えにくさ」「自分の思いを伝えること」「コミュニケーション不足」などの記述が繋がりを持つ形で見られた。10の姿でいえば、「健康な心と体」「協同性」「社会生活との関わり」「言葉による伝え合い」などが関わっていた。

子どもの育ちへの影響度を尋ねたところ、園の種別による状況の違いにもかかわらず、その捉えに違いはなかった。子どもの育ちへの影響度を高く捉えていた園に注目すると、「コミュニケーション」「年齢」「人との関わり」「環境」「制限」等に関わる記述が見られた。具体的には、「それぞれの年齢までに体験しておきたかったことが家庭で体験できていない」「人とのコミュニケーションの取り方や身辺自立に自信がなく、不安が伝わる子どもが多い」などの記述がみられた。一方、影響度を低く捉えた園では、「職員間の連携」等を挙げ、子どもの変化は特に感じられないとの記述が散見された。具体的には、「できる形でできることを取り組んできたことは、保護者の方は理解をしてくれ（中略）協力してくれたことが大きい」「どんな困難も（中略）きちんとした対策を講じて、のびのびと教育活動を継続することができた」などの記述がみられた。厳しい状況の中でも、どうにかできたこと、そのような状況だからこそできたこと、に目を向ける傾向が伺えた。

3. 「繋がる」というキーワード

討論では、1つのキーワードとして「繋がる」が取り上げられた。これを踏まえて、園行事に関わる記述の分析結果について補足説明を行った。すなわち、うまくいった取組の主要語の結び付きを示した共起ネットワークでは、「行事」のワードと「保護者」「協力」「理解」「見直し」などのワードが結び付いていることが伺えた。コンコーダンス分析からは肯定的な記述が確認された。一方、うまくいかなかった取組の共起ネットワークからは、「行事」のワードと「中止」「縮小」が結び付いており、「保護者」などは結び付いていない。厳しい状況の中で、子どもの経験や育ちを保障していくため、保護者の理解や協力を得た園では、うまくいったと捉えられている。討論の中で浮かび上がった「繋がりながら乗り越える」とのフレーズに縮約されるだろう。

「with感染症」時代における保育と子どもの育ちを考える
— 全国調査の結果から見えてきたもの —

- ◎ 園での取組を振り返って
- ◎ 「ICT等の活用」コロナ下→現在
- ◎ 「子どもの育ちへの影響」の捉え

岡山大学学術研究院教育学域 西山 修



※ご協力, ご回答をくださいました先生方に、心より御礼を申し上げます。



1 園での取組を振り返って

コロナ下 各園では 様々な取組が行われた。保育
現場では 今 これらを振り返り どのように捉えて
いるのだろうか？





1 園での取組を振り返って

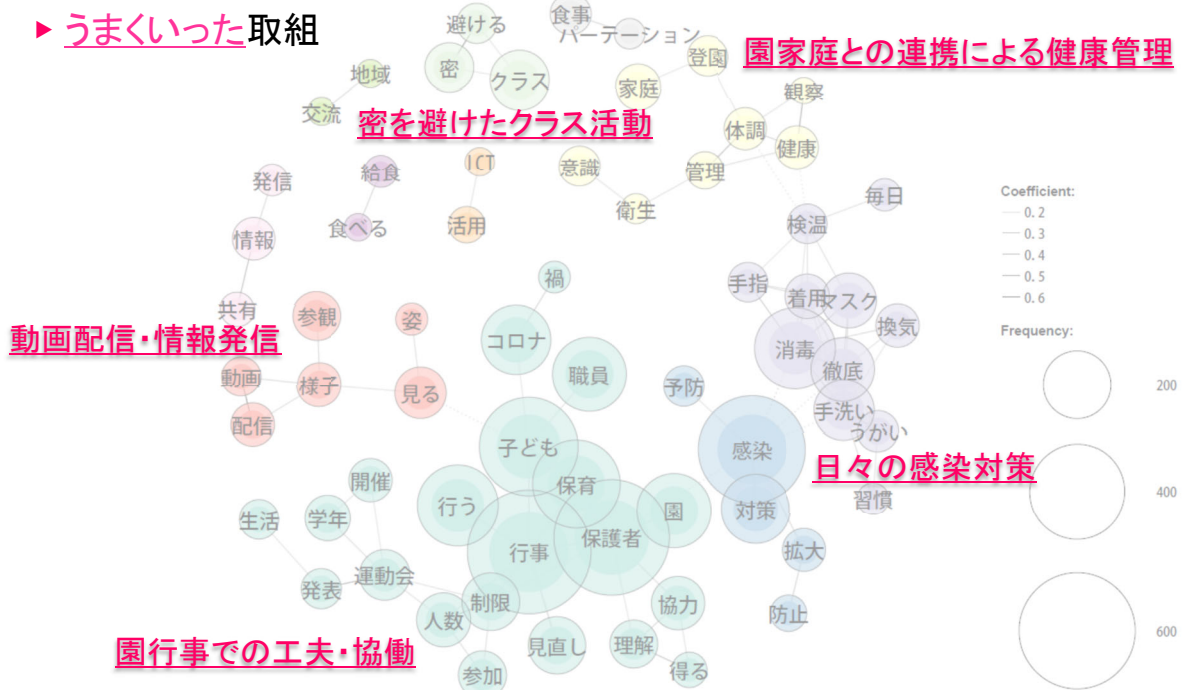
質問紙: I-2. 園での取り組み

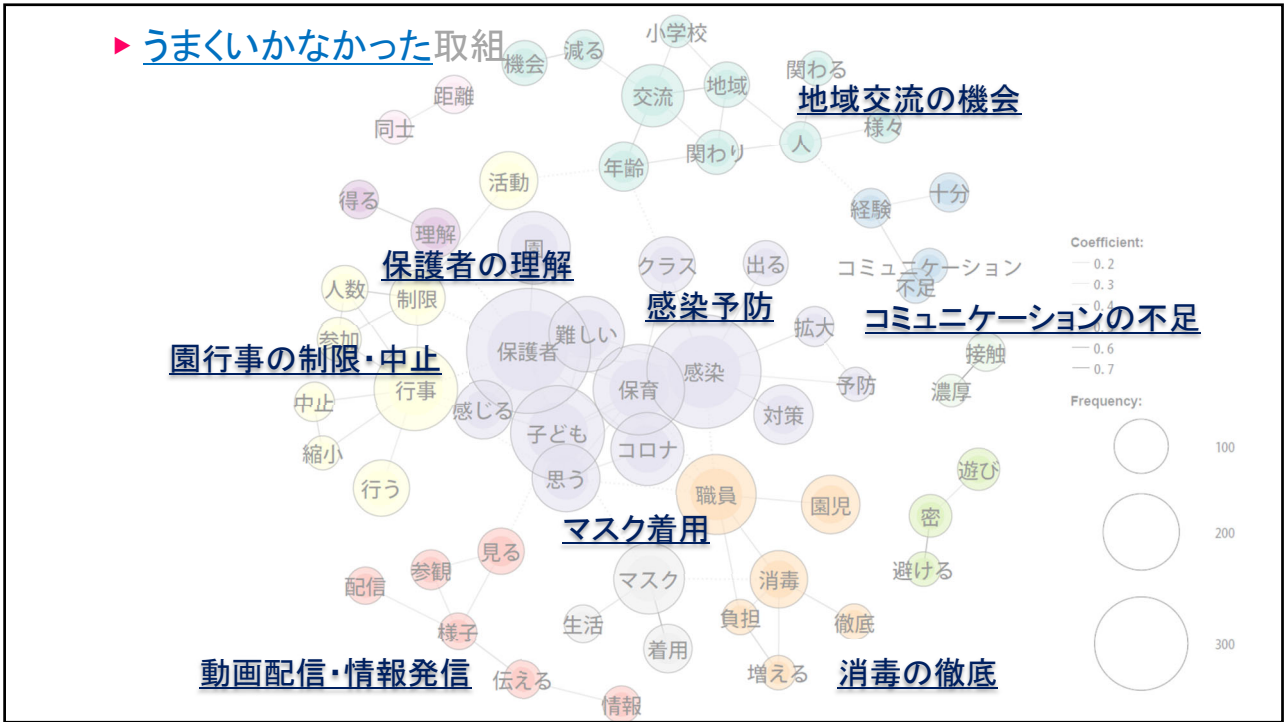
- (1) コロナ下 私の園で取り組み うまくいったのは__
- (2) コロナ下 私の園で取り組んだが うまくいかなかったのは__
- (3) 私の園は コロナ禍を経て__
- (4) コロナを経験して 今後 私の園では__




※予断を持たず 広く園での取組を検討するため SCT(文章完成法)を援用した記述データをテキストマイニングにより検討(N=1,326)。(3)(4)は合わせて分析

3





▶ うまくいかなかった取組



「最初の1年は健康観察や消毒作業に多く時間を取られてしまい、職員の負担が増えてしまった。」(千葉・国公立幼)

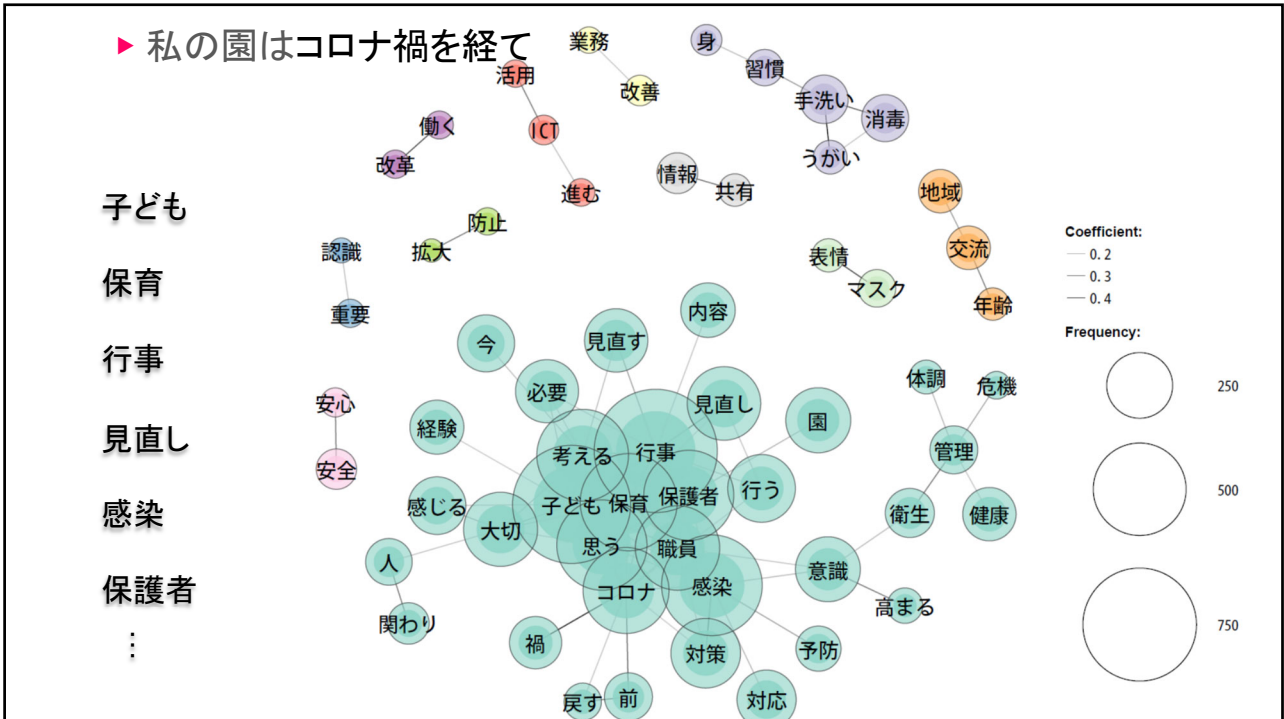
「マスクの着用についてはとても悩んだ。特に乳児クラスは職員の表情が読み取りにくく発達に少なからず影響があったと思う。」(兵庫・私立こ)

「集団保育の中で感染症対策が難しいことを踏まえて、保護者に協力をお願いすること。体調が悪くても無理して登所する子が後を絶たない。」(兵庫・公立保)


「行事など、数は減らさず、人数制限や内容を縮小して行うことが多かったことで、保護者の満足度が低かったようだ。」(大阪・国公立幼)

「異年齢の交流や地域との関わりです。予定していても感染者が出だすとクラスだけの活動となり、地域に出かけていくことも難しかったです。」(京都・公立こ)

「活動の際、ソーシャルディスタンスを保つよう努める中で、保育室や手洗い場の広さ等、施設面での課題が明らかになってきました。活動方法の工夫でなんとかできるところは工夫しましたが、予算や時間等の関係で、根本的な解決には至りませんでした。」(新潟・国公立幼)



▶ 私の園はコロナ禍を経て



「チャンスとばかりに、行事を『子どもをまんなか』に変えていきました。保護者の方からも理解と協力をいただけて感謝しています。」(香川・私立こ)

「コロナは、今まで当たり前だったことがガラッと変わる経験になりました。当たり前を当たり前と思わないこと。そして、子どもにも保護者にも教師にも負担が少なく、より子どもたちの成長にとって必要な行事内容を考えながら進めているところです。」(大阪・国公立幼)

「コロナ下でオンライン研修等以前より多様な研修を受ける機会が増え、より質の高い教育を行っていきます。」(三重・国公立幼)

「感染症への対応や対策は、身につくことが出来た。感染症を怖がらずに「どうしたら出来るか。」などのアイデアを出しながら進めている。」(福島・国公立幼)

「「今まで通り」ではなく、何事にもその時々で、取り組み方を考えていきたいと思っています。」(福岡・私立幼)

「教育課程全般の見直しが進んだ。単に簡素化や時短といったことではなく、各教育活動のねらいを再度全職員で確認しなおし、継続するもの、改善するもの、廃止するもの、新規で取り組むものなどの検討が進められている。」(山形・私立こ)



2 ICT等の活用 コロナ下→現在

コロナ下において 子どもの育ちを保障していくため
各園では ICT等をどのように捉えたのだろうか？
そして **現在**は？

ここでICT (Information and Communication Technology)とは、
通信技術を活用したコミュニケーションとする



2 ICT等の活用 コロナ下から現在

質問紙: VII. ICT等の活用について

- (1) **コロナ下**における ICT等の活用度
- (2) **現在**における ICT等の活用度
- (3) **コロナ下**における保育者のICT等の活用への**関心度**
- (4) **現在**における保育者のICT等の活用への**関心度**

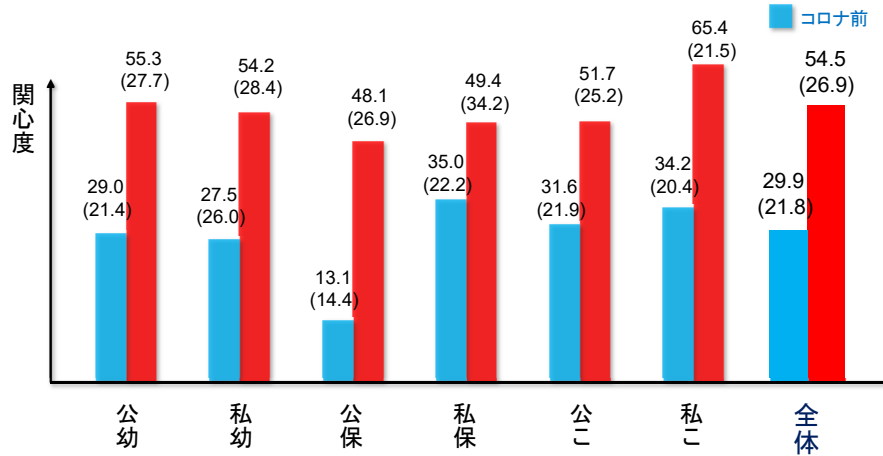


※(1)～(4)は0～100の数字で回答を求めた。それぞれ全て入力があった
園を分析対象とした(活用度N=1,021, 関心度N=1,023)

10

▶ 園でのICT等への関心度はどう変化した？

【参考】前回調査 コロナ前→コロナ下

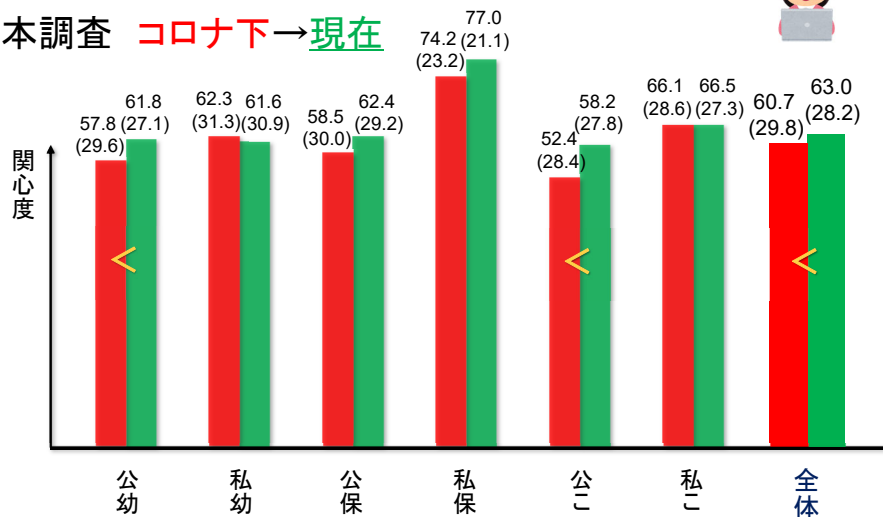


▶ コロナ下の関心度はコロナ前に比べ有意に上昇している。公立私立に関わらず高いが公保の上昇幅が大きい

11

▶ 園でのICT等への関心度はどう変化した？

本調査 コロナ下→現在

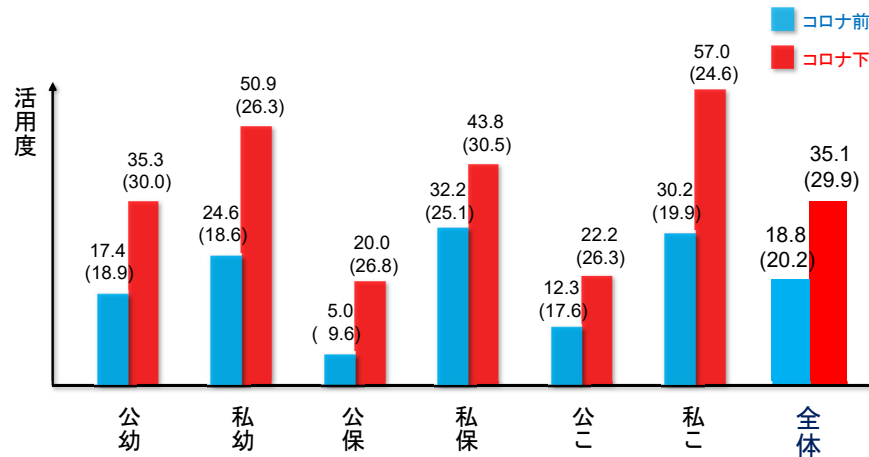


▶ 全体では現在の関心度はコロナ下に比べ有意に高い。公幼、公こで有意な上昇。高い関心度が維持されている

12

▶ 園でのICT等の活用度はどう変化した？

【参考】前回調査 **コロナ前**→**コロナ下**

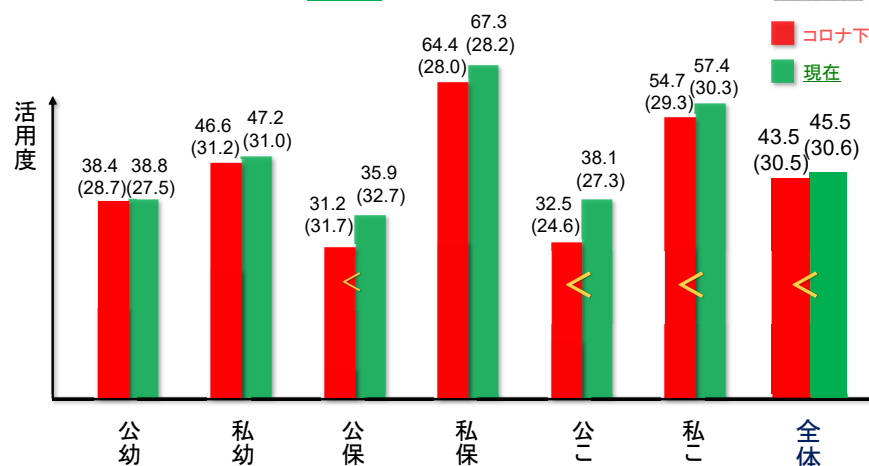


▶ 園の実感として **コロナ下**の活用度は **コロナ前**に比べ有意に上昇。私立で高い傾向。標準偏差の大きさ

13

▶ 園でのICT等の活用度はどう変化した？

本調査 **コロナ下**→**現在**



▶ 園の実感として **現在**の活用度は **コロナ下**に比べ有意に高い園の種別による差は大きい。標準偏差の大きさにも留意

14

▶ 活用度が上がった園では (参考: 前回調査より)



- 「家庭でできる折り紙や製作物, 園でしているダンスや手遊び歌遊びなどのメール配信。対面の保護者懇談会が難しいので, 紙ベースと話しかける映像をYouTubeで配信」(東京・私立幼)
- 「登降園の管理をICT化したり, 園での様子や活動を保護者に伝える手段として使ったりしています。なかなか保護者がじっくり保育を見れなくなっているのを, 活用させてもらってます」(徳島・私立こ)
- 「保護者の来園機会が減ったため, 保育の見える化を推進(ドキュメンテーションや動画配信)。日々の様子を写真に収めていることで, 子ども達の育ちにも気づき, 共有することができるように」(広島・私立こ)
- 「Zoomによるクラス別懇談会の実施」(京都・私立幼)
- 「コロナ禍において, 研修等が中止・延期となっていく中で, 園内でのオンラインやリモートでの研修を活用し, 職員間で情報を共有することで資質向上につなげている」(香川・国公立幼)
- 「もっと様々な活用方法があるのではないかと考えておりますが, まだまだ未熟な面もあり, 勉強し, 情報を吸収しなければと思います。今後はICTだけではなく, 対面の良さや融合させながら, 何が出来るのかを模索したい」(大阪・私立幼)

▶ 活用度に変化がなかった園では.. (参考: 前回調査より)

※変化なし n=74



- 「環境が整っていないため, 実際できていない」(岡山・国公立幼)
- 「まだまだこれからです。いろいろ職員間で話し合っ活用していきたいです」(香川・公立こ)
- 「園児数が非常に少ないため, 今までの保育や感染対策で十分と考え, ICT等の活用には取り組んでいない。専門の技術を持った職員がいないため取り入れるのは難しい。また, 機器がなく, したくてもできない」(徳島・公立こ)
- 「子どもの育ちを保障していく上で, ICTは特に必要と考えていません」(徳島・私立こ)
- 「個人情報の流出を鑑み, 動画配信はしていない。写真にて活動の様子をご家庭へお伝えしている」(長崎・私立幼)
- 「どのように保育に生かしていけばいいかメリットも分かりませんが, 実際に見る, 触れる, 聞く, 匂うなど感じられる保育を大切にしたいので活用はあまり考えられません」(香川・公立こ)
- 「今のところまだ検討中で, 取り組んでいない。子どもの育ちを保障することと職員の業務を減らすことで, 保育に活かせる時間を増やしたい。コロナでなくても」(滋賀・私立保)



3 「子どもの育ちへの影響」の捉え

コロナ下において 各園では子どもの育ちを保障するための努力がなされてきた。保育現場の実感としてコロナ禍による**子どもの育ちへの影響**をどのように捉えているのだろうか？



3 「子どもの育ちへの影響」の捉え

質問紙: I-2.園での取り組み

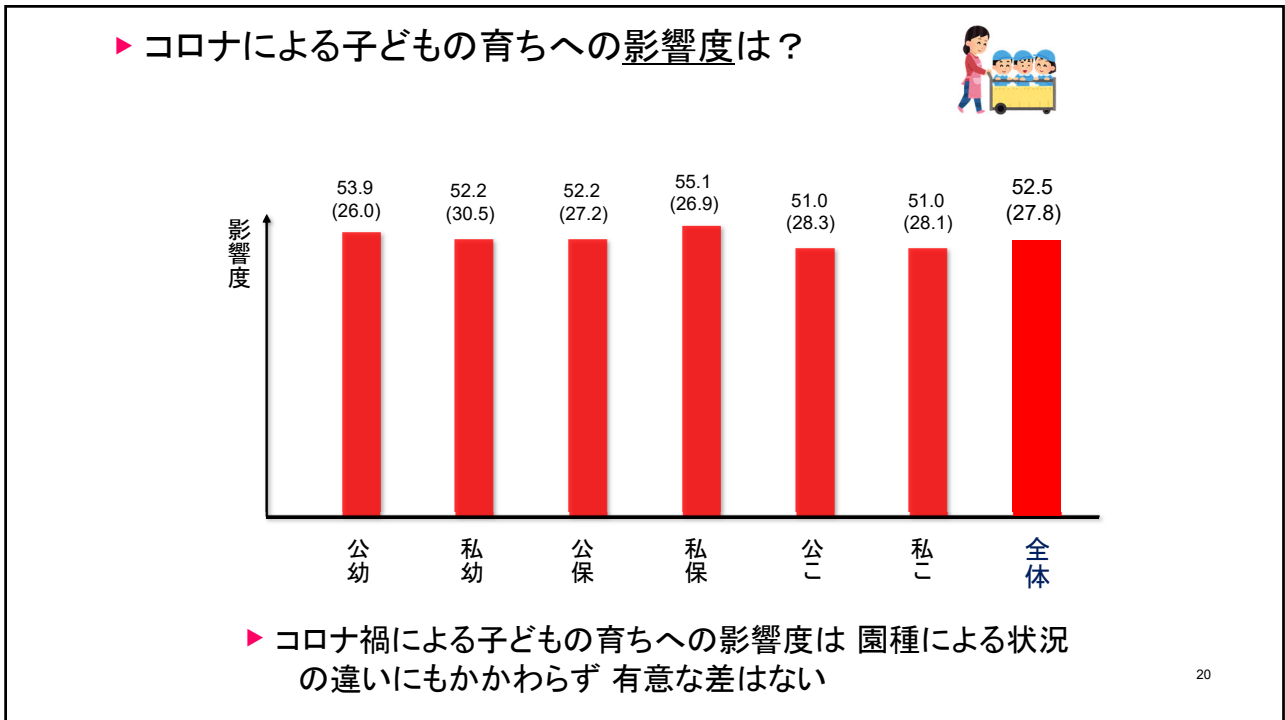
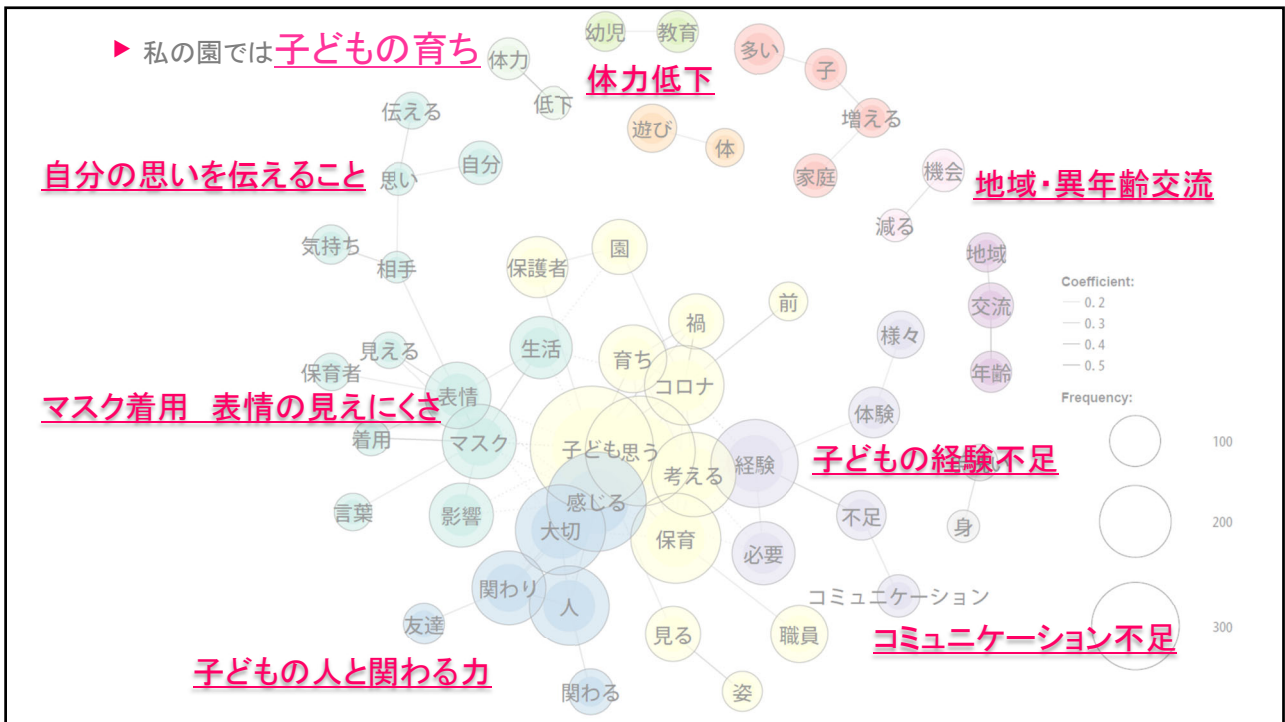
(5) 今改めてコロナの経験を振り返り私の園では**子どもの育ち**__

質問紙: VII-(5) 子どもの育ちへの影響

(5) 貴園でのコロナによる**子どもの育ちへの影響度**



※ I-2-(5)は SCT(文章完成法)を援用。VII-(5)は0~100の数字で回答を求めた



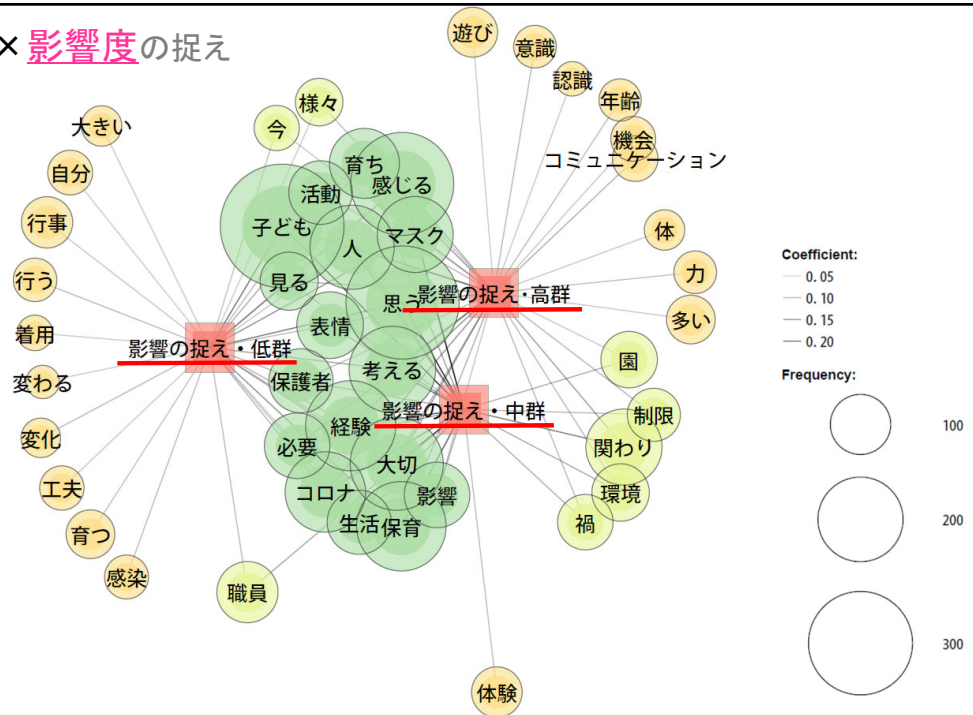
▶ テキスト × 影響度の捉え

表2 子どもの育ちへの影響度の捉え3群毎のJaccard係数

影響の捉え・高群		影響の捉え・中群		影響の捉え・低群	
必要	.096	感じる	.203	子ども	.118
思う	.096	大切	.179	思う	.115
コロナ	.091	経験	.160	マスク	.096
育ち	.090	人	.134	保育	.092
子ども	.089	関わり	.126	影響	.081
経験	.087	必要	.087	育ち	.072
人	.086	職員	.085	保護者	.070
関わり	.083	環境	.080	変化	.063
大切	.082	園	.076	見る	.062
考える	.081	禍	.073	職員	.061

影響度の平均値±1SDにより3群を設定

▶ テキスト × 影響度の捉え



▶ 子どもの育ちへの影響度が**高い**と捉えていた園では.. ※

1SD以上の園 n=118

- 「それぞれの年齢までに体験しておきたかったことが家庭で体験できていない…という状態のお子さんが多く見られます。」(兵庫・国公立幼)
- 「担任がマスクを外した顔を初めて見た子どもたちは非常に驚いた表情をし、動揺すら感じられた。乳幼児期に育つ、様々な感性がコロナ以前のように発達していくような取り組みを意図的に計画しなければならない。」(福島・私立こ)
- 「コロナ禍に人との関わりが希薄だった時期に育った子どもたちが入園し、人とのコミュニケーションの取り方や身辺自立に自信がなく不安が伝わる子どもが多いと感じます。集団生活の中でできる豊かな経験が心身の育ちを促せるようにしていきたい。」(大阪・国公立幼)
- 「ディスタンスを強いられてきた子どもたち、マスクで表情がわからない保育者との関わりでどのような成長に影響するのかと心配。」(山形・私立幼)
- 「マスクの生活が続き、コミュニケーション能力の低下。給食の黙食により楽しい雰囲気では味わうことが出来ず寂しさを感じます。歯みがき指導も出来なかったため生活全般において経験不足を感じています。」(茨城・私立こ)
- 「人との関わり(譲り合いや妥協点を見いだす等々、全ての思いが通る訳ではない幼稚園という社会生活)が苦手になってしまった子どもや、自分の子どもへの対応が分からない保護者が、コロナ前より増えた感がある。」(長野・私立こ)

※ご協力、ご回答をいただきました先生方に心より御礼を申し上げます。

▶ 子どもの育ちへの影響度が**低い**と捉えていた園では.. ※

1SD以下の園 n=192

- 「園児同士の接触はコロナ禍当初はかなり強く制限したが、2年日以降は緩めることができて協調性や対人関係での育ちの課題はあまり感じていない。」(埼玉・国公立幼)
- 「できる形でできることを取り組んできたことは、保護者の方は理解してくれ、現在も「〇〇をしてくれてよかった」「大変だったけど、やったことは思い出になっている」等の感想をくださる。子どもの思いが一番だが、その子どもを支える保護者の方が協力してくれたことが大きい。」(石川・国公立幼)
- 「行事が少なくなり、人と関わる機会は減りましたが、その分、園内で自分の興味のあることにじっくりと、友達と一緒に取り組む時間が保障されました。その結果、好奇心や探究心が育ったように思います。」(大阪・国公立幼)
- 「子どもの育ちが保証されたか、不安な点もあるが、子どもが笑顔で過ごしている日々を見ていると、やってきたことは間違っていないと思いたい。」(香川・公立こ)
- 「どんな困難も子どもにストレスを与えず、きちんとした対策を講じて、のびのびと教育活動を継続することができた。子どもは、柔軟な対応力もあり、希望に満ちている。」(熊本・私立幼)

※ご協力、ご回答をいただきました先生方に心より御礼を申し上げます。

4 職員間のコミュニケーションを支えた誇り

花輪 充

本調査では、【チームワーク】【信頼関係】【ストレス解消】【情報共有の円滑化】の4つの視点から回答者に質問を投げかけ、北海道・東北（107件）、関東（353件）、中部（160件）、近畿（270件）、中国（135件）、四国（122件）、九州・沖縄（135件）の7地方区ごとに、コロナ感染拡大期から5類移行期以降における職員間のコミュニケーションの変容を探った。

1. 【チームワーク】について

（1）「コロナ感染拡大期に比べ職員間のチームワークはどのように変化したか」の質問に対して、①コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは著しく向上、②コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは向上、③コロナ感染拡大期と変わらず、④コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは低下、の4択から回答を得るとともに、（2）その理由を自由記述より分析した。その結果、（1）7地方区ともに③と②に回答が集中する結果となった。（2）理由としては、「情報共有がスムーズにできる環境の整備、個人のアイデアや考えを受け止めてくれる機会の整備」が上位を占めたが、職員間の保育情報が共有され、話し合いの機会が増えたこと、自身の意見や考えを積極的に発信できるようになったこと、園全体でクラスの状態や子どもの姿を見たり助け合うようになったこと、協力体制を強化するなど、チームワークの大切さと向上意識が強化されたこと、感染対策の必要性の声が以前よりあがるようになったこと、相談（話し合い）、報告、連絡の機会をもつようになったことなど、リーダーシップとパートナーシップが平常時以上に円滑化したと推測できる。

2. 【信頼関係】について

（1）「コロナ感染拡大期に比べ職員間の信頼関係はどのように変化したか」の質問に対して、①コロナ感染拡大期に比べ職員間の信頼関係が著しく向上、②コロナ感染拡大期に比べ職員間の信頼関係が向上、③コロナ感染拡大期と変わらず、④コロナ感染拡大期に比べ職員間の信頼関係が低下、の4択から回答を得るとともに、（2）その理由を自由記述より分析した。その結果、7地方区ともに③と②に回答が集中する結果となった。（2）理由としては、「相手の気持ちに寄り添える共感力の獲得、要求や依頼等の円滑な受け止め」が上位にあげられた。これは、7地方区問わず、保育従事者としての姿勢を物語っていると捉えるべきである。コロナ禍において陣頭指揮をとった園長、所長、職員の信頼関係が深まったこと、保育のことや子どものことについて話し合う機会が増えたこと、相手を思いやる気持ちが高まり日々の課題に対して共有する機会が多くなったこと、クラスを超えて意見や思いを伝えあえるようになったことなどによる影響であろう。そのことが、子どもを真ん中とした保育の実践に大きく影響しているとも考えられる。

3. 【ストレス解消】について

(1) 「コロナ感染拡大期に比べ職員のストレス解消対策についてどのような手立てを講じているか」の質問に対して、①コロナ感染拡大期以降も職員のストレス解消対策に積極的に取り組む、②コロナ感染拡大期以降も職員のストレス解消対策に取り組む、③コロナ感染拡大期以降も変わらず、④コロナ感染拡大期以降も職員のストレス解消対策は特に考えず、の4択から回答を得るとともに、(2) その理由を自由記述より分析した。その結果、(1) 7地方区ともに②と③に回答が集中する結果となった。(2) 理由としては、「相互理解の深化による信頼関係の回復、同僚と良好な関係構築」が上位にあげられた。これは、地域性に関係なく、職員間のストレス回避の方略が恒久的に取り組まれていることを象徴しているように思える。対話を絶やさず、たとえ他愛ない会話であってもその機会を大事にしたこと、共感的な雰囲気の中でのおしゃべりをするように心がけたこと、一方で業務の軽減に目を向けオンとオフをはっきりさせるようにしたこと、管理職と職員が話を聞きあう機会を増やしたことなど、子どもの不利益とならないようスタッフ一同が協働意識を高めあい、プライドをもって業務の在り方を見直したことなどがあげられよう。

4. 【情報共有の円滑化】について

(1) 「コロナ感染拡大期に比べ、どのような情報共有の円滑化のために対策を講じているか」の質問に対して、①コロナ禍以降職員間の情報共有の円滑化のために積極的な対策を講じる、②コロナ禍以降職員間の情報共有の円滑化のために対策を講じる、③コロナ感染拡大期と変わらず、④コロナ禍と比べ職員間の情報共有の円滑化のために対策は行わず、の4択から回答を得るとともに、(2) その理由を自由記述より分析した。その結果、7地方区ともに、②と③に回答が集中する結果となった。(2) 理由としては、「コミュニケーションによる情報共有の円滑化、コミュニケーション機会の活性化」があげられた。これは、7地方区ともに情報共有を円滑化するために職員間の情報共有が欠かせぬものと誰もが考えられるようになったこと、ICT を活用してのコミュニケーションが欠かせぬものとなったこと、コロナ禍を通してパンデミックに対する意識が明確化され、さらなる事態に備えての対策に向けて、共通理解の機会がはかられるようになったこと、安全・安心に対する職員の意識がより一層高まったことなどから推測できる。

北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の7地方区、それぞれに回答件数の違いはあれ、4つの視点において同様な結果が得られたことは興味深い。着目すべきは「③コロナ感染拡大期と変わらず」といった文言に回答が集中したことである。コロナ下を潜ってきた保育従事者にとって、ここで言う「変わらず」とは“なすがままに身を任せる”といったことではない。パンデミックを耐え忍び、劣悪なコンディションのなか、子どもの健全な育ちと幸せを守り抜こうとした彼らの心意気と行動力、そしてその原動力となった職員間のコミュニケーション力は、ポストコロナにおいても持続されているのである。

※概要説明の図表は割愛

日本保育学会第77回大会 課題研究委員会シンポジウム

「with 感染症」時代における保育と子どもの育ちを考える
—全国調査の結果から見えてきたもの—

職員間のコミュニケーションを支えた誇り

花輪 充（東京家政大学）

研究協力者：大久保麻彩（東京家政大学児童学科助教）

本調査では、【チームワーク】【信頼関係】【ストレス解消】【情報共有の円滑化】の4つの視点から回答者に質問を投げかけ、北海道・東北（107件）、関東（353件）、中部（160件）、近畿（270件）、中国（135件）、四国（122件）、九州・沖縄（135件）の7地方区ごとに、コロナ感染拡大期から5類移行期以降における職員間のコミュニケーションにおける変容の実態を探った。

【チームワーク】について

(1) コロナ感染拡大期に比べ職員間のチームワークはどのように変化したか。

- ① コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは著しく向上
- ② コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは向上
- ③ コロナ感染拡大期と変わらず
- ④ コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは低下

の4択から回答を得た。その結果、7地方区ともに③②に回答が集中！

(2) 該当理由として、〈情報共有がスムーズにできる環境の整備、個人のアイデアや考えを受け止めてくれる機会の整備〉が上位を占めている。

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	③ 47%	② 48%	③ 44%	③ 49%	② 45%	③ 48%	② 46%
2	② 39%	③ 40%	② 43%	② 39%	③ 43%	② 42%	③ 44%
3	① 11%	① 9%	① 10%	① 8%	① 11%	① 7%	① 7%
4	④ 3%	④ 3%	④ 3%	④ 4%	④ 1%	④ 3%	④ 3%

(図表1)

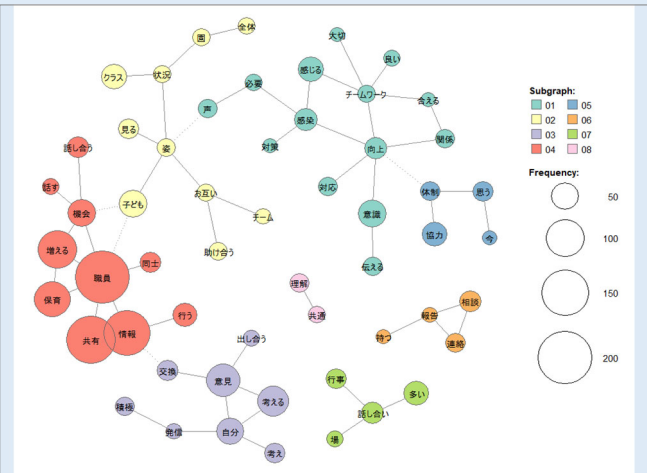
(3) ①②をチェックされた方へ～(2)で答えた内容をふまえ、チームワークの向上はどのような形でみられるか。以下の文章に続けて、思いつくままに記述のこと。(以下、542件の回答より)

『コロナ感染拡大期に比べ、チームワークの向上を感じることは・・・』

- ・お互いのことを思いやる姿が見られる。
- ・それぞれが幼児理解を深め、創意工夫性を主体的に発信している。
- ・危機意識をもったの発言が増えたことである。
- ・迅速で的確な共通理解ができた。
- ・マスクなしで表情が見えやすい。
- ・誰か担任が休んだ時に、合同保育を取り入れたり、週案を見て予定の活動を臨機応変に行う場面が自然と見受けられる。
- ・互いに意見を出し合える。
- ・全教員で全園児を見守る姿勢が確立され、必ず保育後カンファレンスをしている。
- ・堅苦しいものではなく、笑いながら自分の担当だけでなく、全園児のことを全教員で把握できている。など

【チームワーク】①②回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
職員	200	体制	27	チーム	17	拡大	11	担任	9
共有	162	連絡	27	姿勢	17	確認	11	中心	9
情報	145	対応	25	出来る	17	休む	11	働く	9
増える	103	理解	25	発信	17	教職員	11	発言	9
保育	89	関係	24	罰状	16	実施	11	役割	9
意見	76	声	24	報告	16	出る	11	様々	9
考える	67	積極	24	行動	15	進める	11	フォロー	8
機会	54	伝える	24	合える	15	一人ひとり	10	意思	8
意識	53	姿	23	今	15	交流	10	園長	8
子ども	53	助け合う	23	持つ	15	進む	10	検討	8
自分	50	お互い	22	対策	15	図る	10	個々	8
クラス	43	それぞれ	22	大切	15	対面	10	作業	8
感じる	43	チームワーク	22	話	15	対話	10	若い	8
協力	41	状況	22	コミュニケーション	14	担当	10	取り入れる	8
多い	41	以前	21	工夫	14	徹底	10	場面	8
行う	40	園	21	取り組む	14	方法	10	増やす	8
感染	36	学年	21	出す	14	掛け合う	9	伝達	8
向上	34	活動	20	全員	14	経験	9	保護	8
話し合い	34	環境	20	様子	14	研修	9	話し合える	8
相談	32	共通	20	活用	13	言う	9	マスク	7
時間	31	全体	20	高まる	13	互い	9	解決	7
話し合う	31	必要	20	仕事	13	語り合う	9	気持ち	7
スムーズ	30	コロナ	19	雰囲気	13	向ける	9	共に	7
交換	30	会議	19	ICT	12	主任	9	行える	7
同士	30	出し合う	19	業務	12	消毒	9	細かい	7
見る	29	撮	19	互いに	12	新しい	9	使う	7
考え	29	内容	18	常に	12	人	9	思い	7
行事	29	良い	18	年齢	12	疎通	9	事項	7
思う	29	連携	18	把握	12	他	9	自由	7
会議	28	話す	18	アイデア	11	体調	9	取り組み	7



- ⇒ 職員間の保育情報が共有され、話し合いの機会が増えた。
- ⇒ 自身の意見や考えを積極的に発信できるようになった。
- ⇒ 園全体でクラスの状況や子どもの姿を見たり、助け合うようになった。
- ⇒ 協力体制を強化するなど、チームワークの大切さと向上意識が強化された。
- ⇒ 感染対策の必要性の声が以前よりあがるようになった。
- ⇒ 相談（話し合い）、報告、連絡の機会をもつようになった。
- ⇒ 積極的に意見を出したり、考えを発信できるようになった。

コロナ感染拡大期に比べ、チームワークの向上と感ずることは・・・（後続文章の頻出語より読み解く）

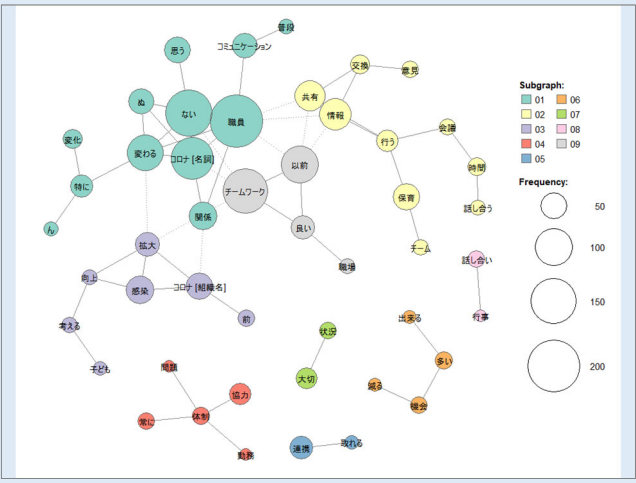
（４）「③コロナ感染拡大期と変わらない。④コロナ感染拡大期に比べ、職員間のチームワークは低下した」。をチェックされた方にお尋ねします。その理由を、思いのままに記述のこと。（以下、542件の回答より）

- 『③④である理由としては・・・』
- ・特になし。
 - ・以前からチームワークはよかった。
 - ・特に変わらない。
 - ・コロナ前から十分な連携がとれていた。
 - ・コロナ禍での「何が正解か」判断しづらい状況を経験して、思いもよらない発想や工夫に「正解」がある可能性を多くの職員で認めたので。
 - ・今までと違うアイデアが必要だった。
 - ・コロナ禍以前から、チームワークは大変良い。
 - ・全教員で全園児を見守る姿勢が確立され、必ず保育後カンファレンスをしている。
 - ・以前からチームワークはよく、感染拡大期にも互いにフォローしあって保育をしていた。など

【チームワーク】③④回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
職員	205	職に	20	取り組む	10	話す	8	不足	6
チームワーク	148	状況	20	日頃	10	メンバー	7	雰囲気	6
コロナ	131	話し合い	20	問題	10	影響	7	密	6
以前	100	意識	19	良好	10	体験	7	無い	6
変わる	94	会議	19	お互い	9	減少	7	予防	6
情報	74	チーム	18	園内	9	持つ	7	運営	5
共有	68	考える	18	現在	9	出し合う	7	見る	5
関係	58	今	18	交流	9	設ける	7	互いに	5
感染	57	少ない	17	行く	9	大変	7	姿勢	5
保育	52	向上	16	仕事	9	通常	7	実施	5
コロナ	51	職場	16	食事	9	楽しい	7	取る	5
親う	49	必要	16	進める	9	理由	7	親睦	5
コミュニケーション	45	音段	16	増える	9	スムーズ	6	人数	5
拡大	44	話し合う	16	対策	9	学年	6	制限	5
良い	40	異動	15	内容	9	活動	6	全体	5
連携	38	少人数	15	連絡	9	気	6	対面	5
特に	37	子ども	14	意思	8	業務	6	大きい	5
協力	34	取れる	14	園長	8	経験	6	徹底	5
行う	34	理解	14	環境	8	研修	6	伝える	5
大切	32	元々	13	変わる	8	悪い	6	入れ替わる	5
感じる	31	減る	13	共通	8	時期	6	風通し	5
交換	27	出来る	13	小規模	8	自分	6	変える	5
変化	27	同士	12	場	8	集まる	6	報告	5
時間	24	クラス	11	全員	8	従来	6	目指す	5
園	23	教職員	11	疎通	8	信頼	6	それぞれ	4
多い	22	対応	11	相談	8	心がける	6	アイデア	4
体制	22	勤務	10	大事	8	人事	6	スズク	4
機会	21	継続	10	努める	8	回る	6	ミーティング	4
期	21	工夫	10	日々	8	中心	6	維持	4
意見	20	行事	10	様々	8	特別	6	一緒	4

③④である理由としては？



- ⇒ 職員間の関係は特に変化はない。
- ⇒ 職場のチームワークは以前より良い。
- ⇒ 情報を共有しあい、会議等を通じて話し合う時間を担保する。
- ⇒ 常に協力体制、連携がとれるようになった。
- ⇒ 感染対策の必要性の声が以前よりあがるようになった。
- ⇒ 相談（話し合い）、報告、連絡の機会をもつようになった。
- ⇒ 積極的に意見を出したり、考えを発信できるようになった。

【信頼関係】について

(1) コロナ感染拡大期に比べ、貴園では現在、職員間の信頼関係はどのように変化したか。

- ① コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係が著しく向上
- ② コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係が向上
- ③ コロナ感染拡大期と変わらず
- ④ コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係が低下

の4択から回答を得た。その結果、7地方区ともに③②に回答が集中した！

(2) 該当理由として、〈相手の気持ちに寄り添える共感力の獲得（7地方区第1位）、要求や依頼等の円滑な受け止め（7地方区第2位）が挙げられる。職員間の信頼関係の構築と継続〉が重点化されていると捉えられる。

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	③ 61%	③ 61%	③ 59%	③ 61%	③ 52%	③ 60%	③ 54%
2	② 29%	② 29%	② 36%	② 32%	② 40%	② 33%	② 41%
3	① 8%	① 8%	① 4%	① 4%	① 6%	① 6%	① 4%
4	④ 2%	④ 2%	④ 1%	④ 3%	④ 2%	④ 1%	④ 1%

(図表2)

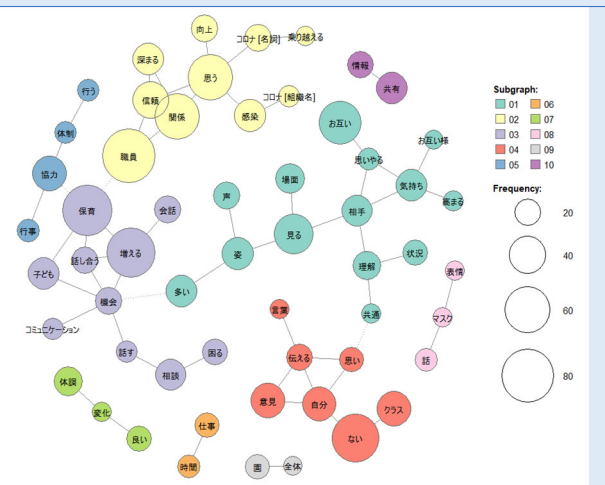
(3) ①②をチェックされた方へ～職員間の信頼関係の変化は、どのような場面に見られるか。以下の文章に続けて思いつくままに記述のこと。(以下408件の回答より)

『コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係の変化は・・・』

- ・変わらない。
- ・深まった
- ・よくなった。
- ・向上した。
- ・新しく決めなければいけないことが多く、話し合いをよく行ったことがよかった。
- ・お互いのことを思いやり、状況に合わせた対応をすることができた。
- ・日常的に穏やかである。
- ・それぞれの良さを認め合い、協力的になった。など

【信頼関係】①②回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
職員	83	向上	21	マスク	11	出し合う	8	姿勢	6
保育	73	声	21	共通	11	揃める	8	周り	6
伝える	70	情報	20	言葉	11	先生	8	出る	6
関係	59	伝える	20	考え	11	同士	8	笑顔	6
思う	59	話し合う	20	乗り越える	11	特に	8	大変	6
感じる	58	互いに	19	表情	11	内容	8	知る	6
お互い	52	困る	19	変化	11	必要	8	発言	6
見る	45	状況	18	様子	11	聞く	8	確信	6
信頼	39	良い	18	お互い様	10	連絡	8	分かる	6
協力	35	聞く	17	業務	10	一緒	7	保護	6
クラス	34	互い	17	全体	10	家庭	7	様々	6
意見	34	仕事	17	変わる	10	改善	7	話し合え	6
自分	33	思い	17	フォロー	9	学年	7	お互いに	5
感染	30	対応	16	気	9	気付く	7	カバー	5
姿	30	雰囲気	16	随い	9	休む	7	安心	5
助け合う	30	以前	15	行動	9	共に	7	意思	5
共有	29	会議	15	際	9	交換	7	園児	5
子ども	29	行事	15	大きい	9	困難	7	課題	5
気持ち	28	時間	15	日々	9	心	7	過ごす	5
深まる	28	話	15	日常	9	人	7	解決	5
多い	28	意識	14	悩み	9	他	7	確認	5
相手	27	行う	14	拡大	8	不良	7	気遣う	5
相談	27	思いやる	14	活動	8	スムーズ	6	言い合う	5
場面	25	体制	14	共感	8	一つ	6	交流	5
体調	24	話し合い	14	言う	8	掛け合う	6	向ける	5
理解	23	コミュニケーション	13	工夫	8	環境	6	構築	5
伝える	22	コロナ	13	合える	8	態	6	行く	5
コロナ	21	話す	13	今	8	経験	6	手伝う	5
会話	21	それぞれ	12	取り組む	8	見える	6	助ける	5
機会	21	高まる	12	受け止める	8	考え方	6	上司	5



⇒ コロナ禍を乗り越えることで職員間の信頼関係が深まった。
 ⇒ 保育のこと、子どものことについて話し合う（相談・会話）機会が増えた。
 ⇒ 相手を思いやる気持ちが高まり、状況や問題に対して共有する機会が多くなった。
 ⇒ クラスを超えて意見や、思いや考えを伝えあえるようになった。

コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係の変化は？(後続文章の頻出語より読み解く)

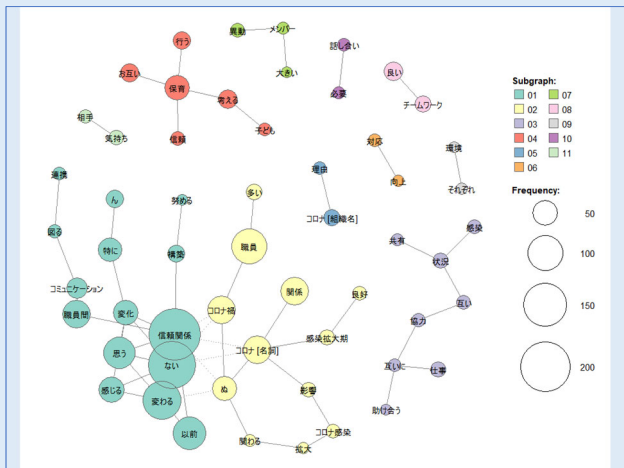
(4) 「③コロナ感染拡大期と変わらない。④コロナ感染拡大期に比べ、職員間の信頼関係が低下した」。をチェックされた方にお尋ねします。その理由を、思いのままに記述のこと。(以下、560件の回答より)

『③④である理由としては・・・』

- ・特になし。
- ・特にありません。
- ・特に変わらない。
- ・もともと信頼関係はよかった。
- ・コロナ前から充分にできていたと思うから。
- ・職員や身近なところでの感染者を経験すると、コロナ禍に対して謙虚になり、困難を共に乗り越えていこうとする気持ちを共有していたように思う。
- ・信頼関係においては、以前からできていたと感じている。
- ・互いに意識してしていることは、あまり変わらないからです。など

【信頼関係】③④回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
信頼関係	214	気持ち	17	日頃	12	雰囲気	8	続ける	6
変わる	115	出来る	17	必要	12	希薄	7	特別	6
職員	100	関係性	16	話し合う	12	協力体制	7	年数	6
以前	86	信頼	16	それぞれ	11	経験	7	分かる	6
思う	80	コロナ感染	15	拡大	11	見る	7	毎年	6
コロナ禍	63	異動	15	向上	11	取る	7	話	6
関係	63	備	15	持つ	11	職員数	7	カバー	5
コロナ	62	感染	15	前	11	人事異動	7	コロナ下	5
職員間	62	互い	15	環境	10	伝える	7	揃う	5
感じる	52	少ない	15	助け合う	10	同様	7	一緒	5
保育	50	職員同士	15	大きい	10	クラス	6	運営	5
変化	49	普段	15	努める	10	一人一人	6	課題	5
特に	45	良好	15	意見	9	会話	6	学年	5
コミュニ	35	協力	14	現在	9	拡大期	6	基本	5
ケーション	34	図る	14	個人	9	寄り添う	6	距離	5
大切	29	相手	14	取り組む	9	業務	6	継続	5
専える	29	強く	14	取れる	9	勤務	6	減る	5
良い	28	コロナ前	13	情報共有	9	研修	6	減少	5
今	27	互いに	13	職場	9	行事	6	交流	5
お互い	27	子ども	13	増える	9	合える	6	公立	5
行う	24	時間	13	無い	9	思いやり	6	考え	5
構築	23	対応	13	話す	9	思いやる	6	考え方	5
コロナ	21	理由	13	コロナ以前	8	自分	6	悪い	5
チームワーク	21	連携	13	会議	8	深める	6	時期	5
意識	20	話し合い	13	少人数	8	朝談	6	上記	5
多い	19	メンバー	12	情報	8	進める	6	情報交換	5
常に	19	関わる	12	人間関係	8	人数	6	状態	5
状況	19	機会	12	尊重	8	声	6	人	5
感染拡大	18	共有	12	大事	8	先生	6	全員	5
仕事	18	相談	12	日々	8	体制	6	丁寧	5
影響	17								



- ⇒ 職員間の信頼関係は以前と変わらない。
- ⇒ 職員間のコミュニケーション（連携と情報共有）を大切に考えている。
- ⇒ 協力しあい、状況を共有しあうよう努めている。

③④である理由としては？

【ストレス解消】について

(1) コロナ感染拡大期に比べ、現在職員のストレス解消対策についてどのような手立てを講じているか。

- ① コロナ感染拡大期以降も職員のストレス解消対策に積極的に取り組む、
- ② コロナ感染拡大期以降も、職員のストレス解消対策に取り組む、
- ③ コロナ感染拡大期以降も変わらず、
- ④ コロナ感染拡大期以降も、職員のストレス解消対策は特に考えず、

の4択から回答を得た。その結果、7地方区ともに②③に回答が集中した！

(2) 該当理由として、〈職員間のストレスを回避するための工夫が、恒久的な取り組みによる相互理解の深化と、信頼関係の回復が同僚との良好な関係構築を裏付ける〉ものと判断できる。

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	③ 46%	② 43%	② 45%	③ 42%	② 43%	② 41%	③ 43%
2	② 36%	③ 41%	③ 41%	② 40%	③ 41%	③ 36%	② 41%
3	④ 11%	④ 10%	④ 8%	① 10%	④ 9%	④ 16%	④ 11%
4	① 7%	① 6%	① 6%	④ 8%	① 7%	① 7%	① 5%

(図表3)

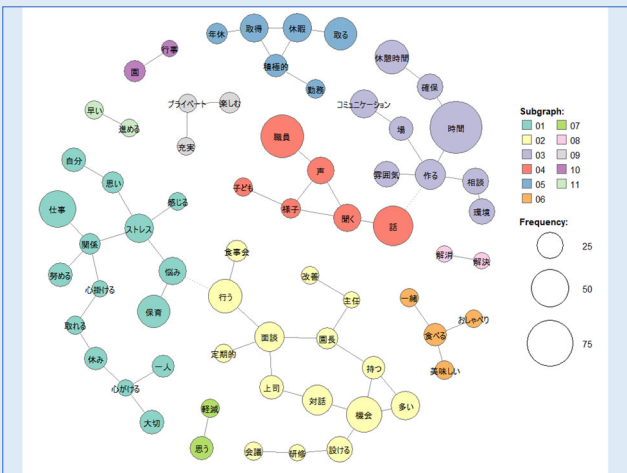
(3) ①②をチェックされた方へ～職員のストレス解消対策は、どのようなかたちで行われているか。以下の文章に続けて思いつくままに記述のこと。(以下495件の回答より)

『コロナ感染拡大期後、職員のストレス解消対策は・・・』

- ・対話
- ・具体策は難しいが、少なくとも上司との風通しが良くなればと考えた。
- ・職員室でのたわいない会話。
- ・業務の軽減と会話の増加。
- ・休憩時間とのオンオフをはっきりさせるとともに、会話を心がけている。
- ・笑って話すこと。
- ・共感的な雰囲気の中でのおしゃべりです。
- ・管理職との面談や、日常的によく会話をしているところです。
- ・とにかく聞きあう。

【ストレス解消】①②回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
時間	97	上司	20	美味しい	13	主任	10	取り組む	8
職員	66	場	20	有給休暇	13	心掛ける	10	趣味	8
会話	61	大切	20	お茶	12	心掛ける	10	出来る	8
話	57	認める	20	ストレス解消	12	話し合う	10	情報	8
仕事	48	リフレッシュ	19	プライベート	12	クラス	9	食事	8
機会	45	思う	19	一緒	12	意識	9	推進	8
行う	41	休み	18	会議	12	飲む	9	整える	8
休憩時間	40	共有	18	勤務時間	12	各自	9	定時	8
取る	38	持つ	18	軽減	12	気軽	9	伝える	8
保育	37	食べる	18	個人	12	減らす	9	努力	8
話す	37	積極的	18	子ども	12	雑談	9	働き	8
作る	32	一人	17	取れる	12	参加	9	必要	8
対話	32	増やす	17	職員同士	12	残業	9	不安	8
面談	31	園長	16	早い	12	受け止める	9	風通し	8
ストレス	29	園長	16	定期的	12	回る	9	話し合い	8
休暇	29	会食	16	おしゃべり	11	体制	9	話せる	8
多い	29	思い	16	改善	11	日常	9	意見	7
コロナ									
コミュニケーション	28	食事会	16	楽しい	11	雰囲気作り	9	掛け合う	7
取得	28	楽しむ	15	感じる	11	思い	9	管理職	7
働き	27	関係	15	休憩	11	いつ	8	帰宅	7
働く	27	工夫	15	充実	11	それぞれ	8	気	7
声	26	年休	15	進める	11	何気ない	8	休憩時	7
相談	25	業務	14	話せる	11	感染	8	休憩	7
確保	24	職場	14	話し合える	11	個々	8	互いに	7
環境	24	様子	14	ストレス	10	チェック	10	構築	7
設ける	24	お互い	13	解決	10	話し合う	10	時間外	7
実施	23	勤務	13	解消	10	行く	8	親睦会	7
職員間	23	考える	13	休暇取得	10	作業	8	推奨	7
雰囲気	23	職員室	13	研修	10	事務	8	増加	7
自分	20	同僚	13	行事	10	自由	8	対策	7



コロナ感染拡大期後、職員のストレス解消対策は？(後続文章の頻出語より読み解く)

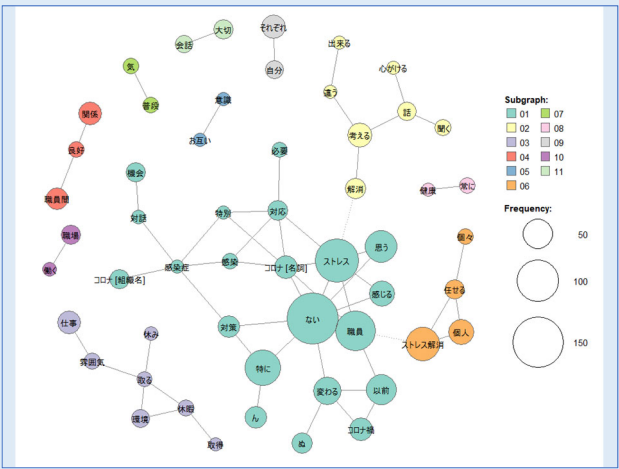
- ⇒ 休暇や休憩時間等の確保について改善をはかっている。
- ⇒ ストレスの少ない職場環境の実現を心がけている。
- ⇒ 定期的に面談を行い、職員の声（仕事の悩み、ストレス等）に耳を傾けるようにしている。
- ⇒ プライベートを充実させるようにしている。
- ⇒ おしゃべりしたり、美味しいものを食べに行ったり、コミュニケーションの機会を大事にしている。

(4) 「③コロナ感染拡大期以降も変わらない。④コロナ感染拡大期以降も、職員のストレス解消対策は特に考えていない。」をチェックされた方にお尋ねします。その理由を、思いのままに記述のこと。(以下、457件の回答より)

- 『③④である理由としては・・・』
- ・特になし。
 - ・特別に取り組んでいない。
 - ・できることをコロナ禍でも取り組んでいた。
 - ・以前から本園の職員は自分なりの解消法をもっていた。
 - ・感染拡大期よりストレスが少ないため。など

【ストレス解消】③④ 回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
ストレス	108	自分	19	お互い	10	継続	7	法	6
職員	93	会話	18	意識	10	雑談	7	ストレス対	5
特に	74	保育	16	違う	10	残業	7	一人ひとり	5
ストレス解消	67	ストレスチャック	15	感染症	10	心	7	部長	5
思う	60	園	15	健康	10	心掛ける	7	解決	5
以前	53	休暇	15	取得	10	先生	7	各個人	5
変わる	45	雰囲気	15	出来る	10	前	7	感染拡大	5
行う	40	働く	15	少ない	10	同僚	7	休	5
感じる	38	話す	15	心がける	10	臨み	7	休憩時間	5
個人	38	各自	14	特別	10	発散	7	勤務	5
考える	33	感染	14	方法	10	有給	7	軽減	5
それぞれ	32	気	14	リフレッシュ	9	様子	7	原因	5
コロナ	30	個々	14	作る	9	良い	7	現在	5
コロナ禍	30	取り組む	14	実施	9	コロナ感染	6	個人的	5
関係	30	常に	14	人	9	拡大期	6	構築	5
仕事	30	普段	14	積極的	9	意見	6	自身	5
職員間	28	良好	14	増える	9	解消法	6	改善	5
対策	28	業務	13	変化	9	確保	6	重要	5
時間	25	取る	13	拡大	8	共有	6	消毒	5
解消	24	多い	13	開わる	8	作業	6	上司	5
対応	23	努める	13	言う	8	悪い	6	職場づの	5
コロナ	21	日頃	13	生活	8	持つ	6	職場環境	5
機会	21	必要	13	声	8	職員同士	6	職務	5
職場	21	休み	11	設ける	8	信頼関係	6	弱る	5
相談	21	行く	11	体制	8	多忙	6	早い	5
大切	21	今	11	年	8	体調	6	入れる	5
在る	21	状況	11	面談	8	対策	6	負担	5
話	20	対話	11	問題	8	大きい	6	毎日	5
コミュニ	19	働く	11	話せる	8	保護	6	無い	5
ケーション	19	配慮	11	マスク	7	抱える	6	話し合う	5
環境	19								



⇒ 以前よりストレスは特に感じない。
 ⇒ ストレス解消についても個人に任せている。
 ⇒ 職員間の雰囲気は良好である。
 ⇒ 職員間の会話や話し合いなど、コミュニケーションは大切にしている。

③④である理由としては？

【情報共有の円滑化】について

(1) コロナ感染拡大期に比べ、貴園では現在どのような情報共有の円滑化のために対策を講じているか。

- ① コロナ禍以降、職員間の情報共有の円滑化のために積極的な対策を講じる、
- ② コロナ禍以降、職員間の情報共有の円滑化のために対策を講じる、
- ③ コロナ感染拡大期と変わらず、
- ④ コロナ禍と比べ、職員間の情報共有の円滑化のために対策は行わず、

の4択から回答を得た。その結果、7地方区ともに②③が上位を占めていることが分かる。

(2) 該当理由として、〈情報共有を円滑化するために欠かせない職員同士の交流が、コロナ禍を契機として強化され、コミュニケーションによる情報共有の円滑化（7地方区第1位）やコミュニケーション機会の活性化（6地方区第2位）〉が推進されていることが推測される。

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	③ 46%	② 43%	② 45%	③ 42%	② 43%	② 41%	③ 43%
2	② 36%	③ 41%	③ 41%	② 40%	③ 41%	③ 36%	② 41%
3	④ 11%	④ 10%	④ 8%	① 10%	④ 9%	④ 16%	④ 11%
4	① 7%	① 6%	① 6%	④ 8%	① 7%	① 7%	① 5%

(図表3)

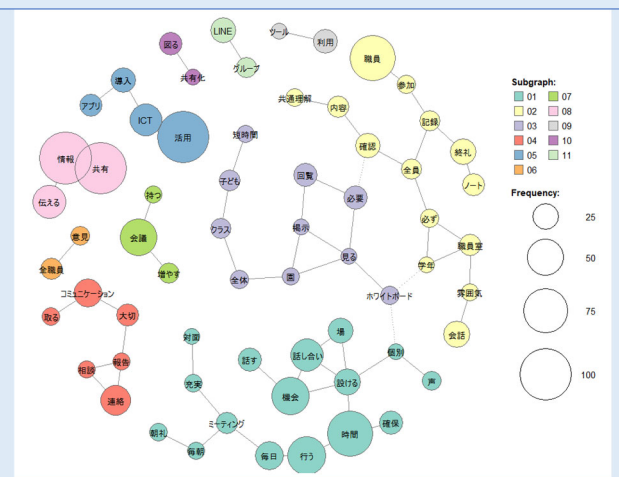
(3) ①②をチェックされた方へ～情報共有の円滑化のための対策は、どのようなかたちで行われているか。以下の文章に続けて思いつくままに記述のこと。(以下529件の回答より)

『コロナ感染拡大期後、職員のストレス解消対策は・・・』

- ・ICTの活用。
- ・対話。
- ・対話できるような会議や研修を進める。
- ・共通理解のための資料作り、決定事項の可視化などを心がける。
- ・SNSの活用。
- ・毎朝のミーティング。
- ・毎日の話し合いの時間と緊急時の対応へのスムーズな情報共有。
- ・振り返りの時間の確保。
- ・コミュニケーションと職員の情報共有への意識向上です。
- ・週案会議を1時間位置付け、週番が進行役となり話し合いをしている。など

【情報共有の円滑化】①②回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
情報	104	メール	21	工夫	13	定期的	10	提供	8
活用	100	回覧	21	参加	13	園児	9	徹底	8
共有	100	確保	21	全体	13	伺わない	9	日々	8
情報共有	88	必要	21	認める	13	休憩	9	発信	8
職員	79	話	21	必ず	13	研修	9	聞く	8
時間	78	話す	21	共通理解	12	雑談	9	方法	8
行う	55	使う	20	掲示板	12	自分	9	それぞれ	7
議会	53	認る	20	語り合う	12	週	9	タブレット	7
会議	51	伝達	20	取る	12	情報交換	9	チャット	7
伝える	42	アプリ	19	充実	12	状況	9	園内	7
話し合い	40	ノート	19	出来る	12	職員同士	9	記入	7
ICT	39	大切	19	朝礼	12	心がける	9	行なう	7
連絡	35	ミーティング	16	話し合う	12	知る	9	仕事	7
コミュニケーション	30	環境	18	意識	11	文書	9	使用	7
毎日	30	作る	18	園	11	話題	9	事項	7
職員間	29	職員室	18	持つ	11	いつ	8	主任	7
会話	27	全職員	16	相談	11	お互い	8	職場	7
打ち合わせ	27	内容	18	短時間	11	カンファレンス	8	丁寧	7
設ける	26	子ども	17	雰囲気	11	グループライン	8	勝	7
終礼	25	実施	17	保育後	11	コロナ	8	保護者	7
多い	25	クラス	16	報告	11	一人	8	面談	7
保育	25	グループ	16	毎朝	11	関係	8	様子	7
LINE	24	記録	16	システム	10	口頭	8	SNS	6
備	24	全員	16	ツール	10	作成	8	コロナ	6
確認	23	増やす	16	学年	10	周知	8	園内研修	6
導入	23	積極的	15	共有化	10	職員会	8	活動	6
ライン	22	意見	14	掲示	10	進める	8	感じる	6
職員会議	22	集まる	14	見る	10	設定	8	休憩時間	6
対話	22	声	14	個別	10	体制	8	業務	6
利用	22	ホワイトボード	13	対面	10	担任	8	決める	6



- ⇒ 職員間の**情報共有**は欠かせないものと考える。
- ⇒ ICTを活用してのコミュニケーションは欠かせぬものとする。
- ⇒ 話し合いの機会や場を確保し、**共通理解**をはかることである。
- ⇒ 職員間の**情報交換等**を円滑にすることである。

コロナ感染拡大期後、情報共有の円滑化のための対策は？(後続文章の頻出語より読み解く)

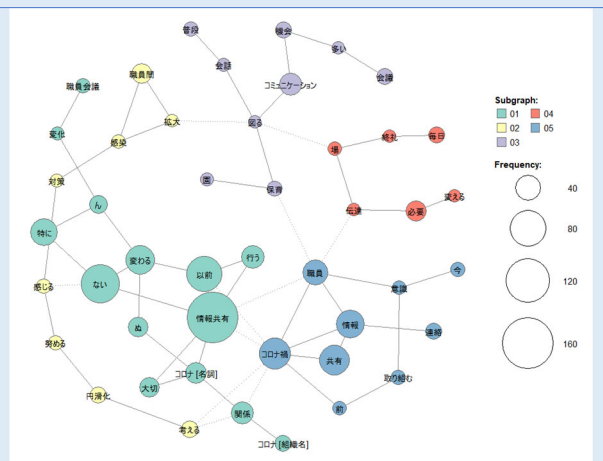
(4) 「③コロナ禍と変わらない。④コロナ禍と比べ、職員間の情報共有の円滑化のために対策は行っていない。」をチェックされた方にお尋ねします。その理由を、思いつくままに記述のこと。(以下、397件の回答より)

『③④である理由としては・・・』

- ・特になし。
- ・特にありません。
- ・基本的には従来から情報共有は、円滑に進んでいると考えている。
- ・以前から話をするので。
- ・変わらず、報連相をしている。
- ・以前から報告・連絡・相談の徹底はできているものとする。
- ・コロナ禍でしていたことを継続しているため。など

【情報共有の円滑化】③④回答者の回答内容をテキストマイニングして作成した共起ネットワーク

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
情報共有	163	取り組む	13	環境	7	口頭	5	重要	4
以前	77	職員会議	13	気	7	作る	5	心掛ける	4
コロナ禍	60	努める	13	現在	7	待つ	5	声	4
共有	57	普段	13	工夫	7	仕方	5	組織	4
変わる	51	コロナ前	12	実施	7	情報交換	5	朝	4
情報	50	意識	12	取る	7	状況	5	伝わる	4
特に	46	感染	12	出来る	7	職員数	5	難しい	4
職員	40	場	12	人数	7	積極的	5	日々	4
行う	33	前	12	全員	7	相談	5	必要性	4
常に	32	円滑	11	打ち合わせ	7	伝える	5	理由	4
コミュニケーション	31	園	11	密	7	報告	5	話し合う	4
関係	31	会話	11	話し合い	7	毎日	5	話せる	4
コロナ	27	対策	11	お互い	6	様子	5	LINE	3
必要	26	変化	11	ノート	6	良い	5	いつ	3
職員間	25	拡大	10	回覧	6	コロナ感染	4	やり方	3
大切	25	終礼	10	確認	6	ツール	4	アプリ	3
考える	18	図る	10	使う	6	ライン	4	クラス	3
行く	18	多い	10	子ども	6	園児	4	コロナ下	3
時間	18	徹底	10	職員同士	6	課題	4	システム	3
思う	17	伝達	10	心がける	6	確保	4	一緒	3
コロナ	16	授える	10	認ける	6	関わる	4	園長	3
円滑化	16	話す	10	体制	6	業務	4	広げる	3
会議	16	少人数	9	対応	6	継続	4	改善	3
機会	16	方法	9	大事	6	行える	4	管理職	3
毎日	16	コロナ以前	8	日頃	6	議する	4	気懸	3
連絡	16	メール	8	配慮	6	仕事	4	共通理解	3
保育	14	活用	8	話	6	仕方	4	共有化	3
ミーティング	13	少ない	8	ICT	5	紙面	4	掲示	3
感する	13	内容	8	意見	5	事項	4	研修	3
今	13	雰囲気	8	記録	5	周知	4	限る	3



- ・職員間の情報共有は、**コロナ禍以前**から行われている。
- ・**情報共有**における大きな変化は特にない。
- ・日頃より職員間のコミュニケーションは大切にしている。

③④である理由としては？

まとめ：

▶ 回答個数の違いはあれ、7地方区4視点全てに同様な結果が得られた。



・職員間の保育情報が共有され、話し合いの機会が増えたこと、・自身の意見や考えを積極的に発信できるようになったこと、・園全体でクラスの状況や子どもの姿を見たり助け合うようになったこと、・協力体制を強化するなど、チームワークの大切さと向上意識が強化されたこと、・感染対策の必要性の声が以前よりあがるようになったこと、・相談（話し合い）、報告、連絡の機会をもつようになったことなど、リーダーシップとパートナーシップが平常時以上に円滑化したと考える。

▶ コロナ禍において陣頭指揮をとった園長、所長の願いと祈り、職員の意地と誇りが「コロナ感染拡大期と変わらない」といった回答を指し示している。



・コロナ禍を乗り切ることで職員間の信頼関係が深まったこと、・保育のこと、子どものことについて話し合う（相談・会話）機会が増えたこと、・相手を思いやる気持ちが高まり、状況や問題に対して共有する機会が多くなったこと、・クラスを超えて意見や、思いや考えを伝えあえるようになったことなど象徴されるように、園長・所長と職員の関係がある意味フラットになり、子どもを真ん中とした保育のり方を考え、実践できるようになったのではないだろうか。

▶ 互いに励ましあい、助け合い、情熱をもって子どものために尽力する中で得られたプライド（誇り）が回答より感じられる。



・対話を絶やさず、たとえ他愛のない会話であってもその機会を大事にしたこと、・共感的な雰囲気の中でのおしゃべりをするように心がけたこと、・一方で、業務の軽減に目を向けオンとオフをはっきりさせるようにしていること、・管理職と職員が話を聞きあう機会を増やしたことなど、子どもの不利益とならないようスタッフ一同が協働意識を高めあい、プライドをもって業務の在り方を見直したことがあげられよう。

▶ 今後も新たな感染症によるパンデミックが発生する恐れは否定できない。これからは、このたびの経験から得られた気づき、生活・行動の変化を再確認し、新たな保育を構想していく実行力こそが求められる。



・職員間の情報共有が欠かせぬものと誰もが考えられるようになったこと、・そのためにICTを活用してのコミュニケーションが欠かせぬものとなったこと、コロナ禍を通してパンデミックに対する意識が職員間において明確化され、さらなる事態に備えての対策に向けて、共通理解の機会がはかれるようになったこと、・安全・安心に対する職員の意識がより一層高まったことなどが顕著であるといえよう。

資 料

「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」（本調査）

質問項目は当面 下記 URL から閲覧できます。ただし送信はしないでください

<https://forms.gle/xC5UXFPYHqhYs9Ex9>



発行日 2024年8月1日発行

発行者 一般社団法人日本保育学会課題研究委員会（委員長 佐々木晃）
